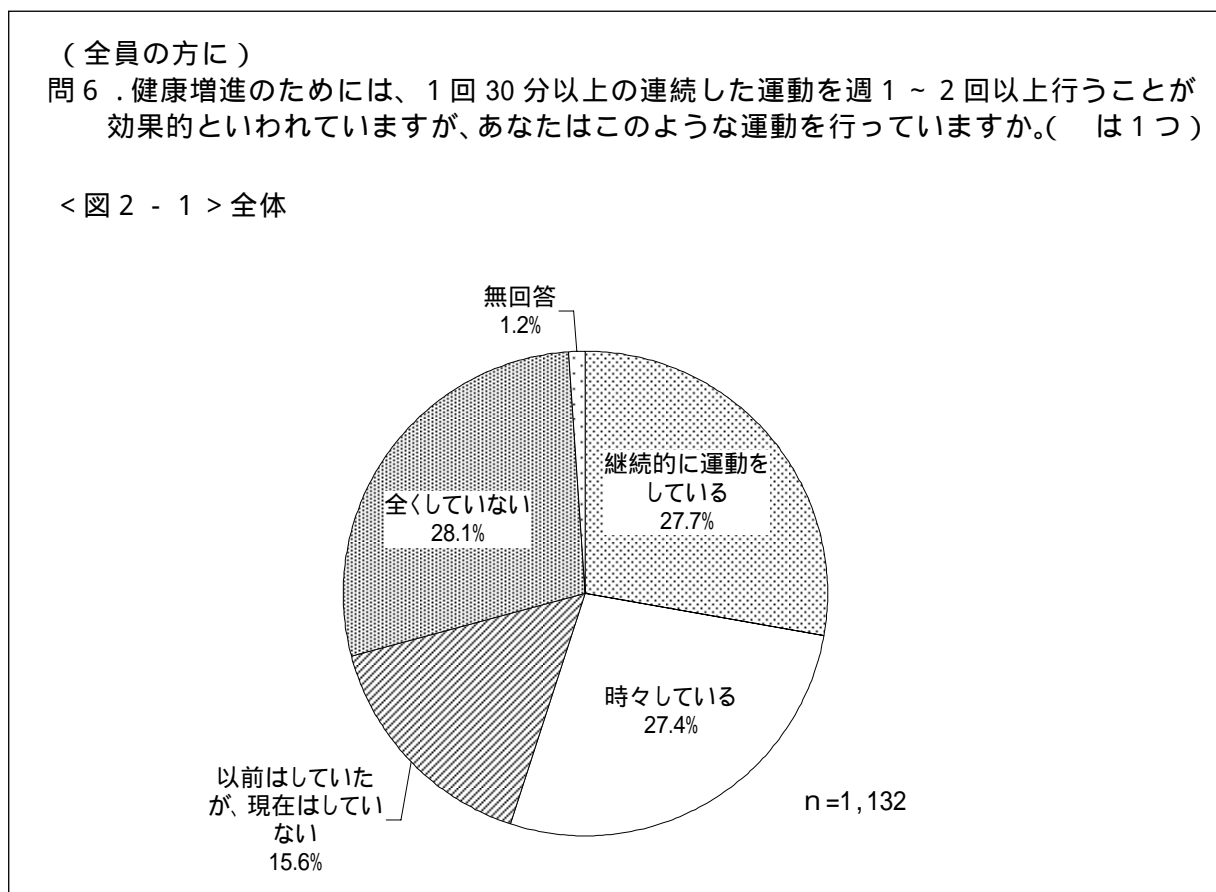


2 . 医療・健康面について

(1) 健康増進のための運動習慣

継続的に運動している人は3割弱



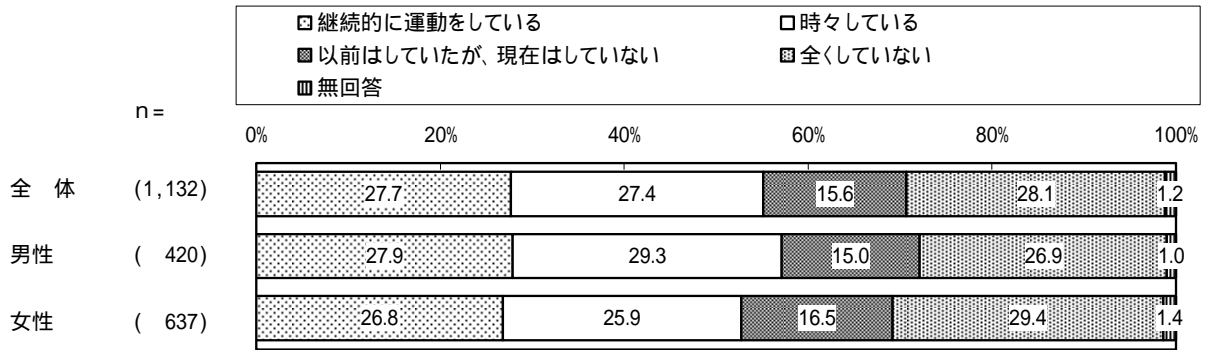
健康増進のために、1回 30 分以上の連続した運動を行っているかたずねたところ、「継続的に運動している」と答えた人は 27.7%、「時々している」と答えた人は 27.4%となっており、この両者を合わせた“運動している”は 5 割半ばとなっている。また、「以前はしていたが、現在はしていない」と答えた人は 15.6%、「全くしていない」と答えた人は 28.1%となっている。(図 2 - 1)

性別に見ると、「継続的に運動している」、「時々している」の両者を合わせた“運動している”は、男性 (57.2%) が女性 (52.7%) より 4.5 ポイント高くなっている。

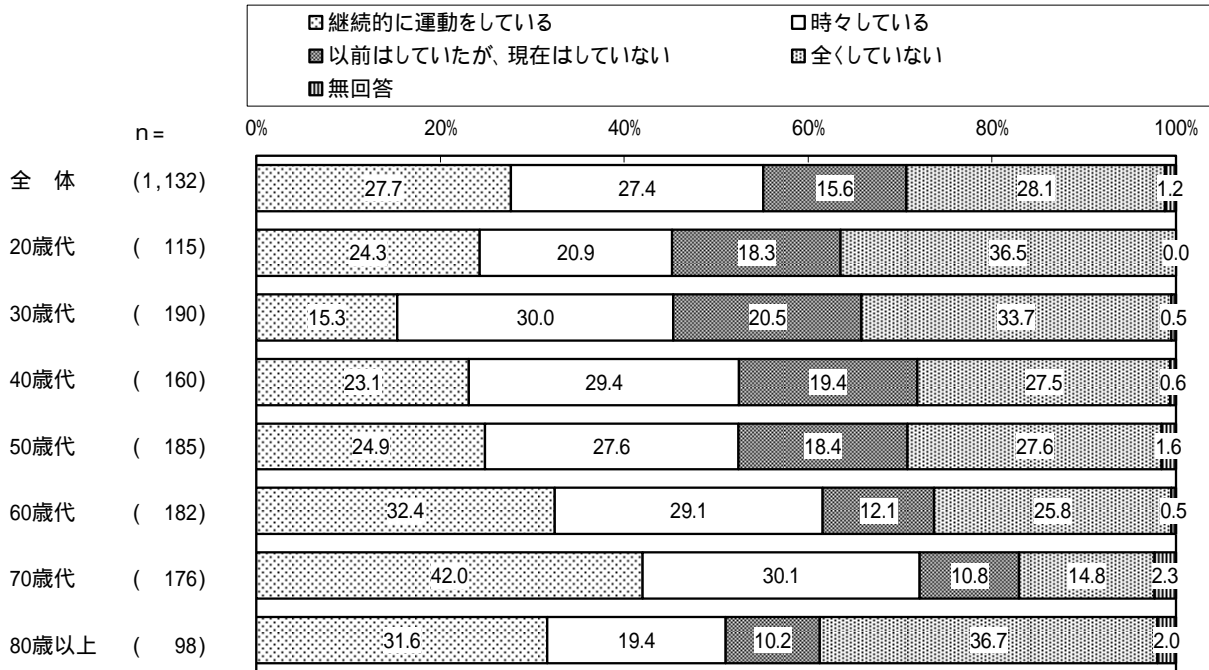
(図 2 - 2)

年齢別に見ると、“運動している”人は 70 歳代では 7 割強、60 歳代でも 6 割強となっている。一方、20 歳代では「全くしていない」と答えた人が 36.5%、30 歳代で 33.7%と高い。(図 2 - 3)

< 図 2 - 2 > 性別



< 図 2 - 3 > 年齢別



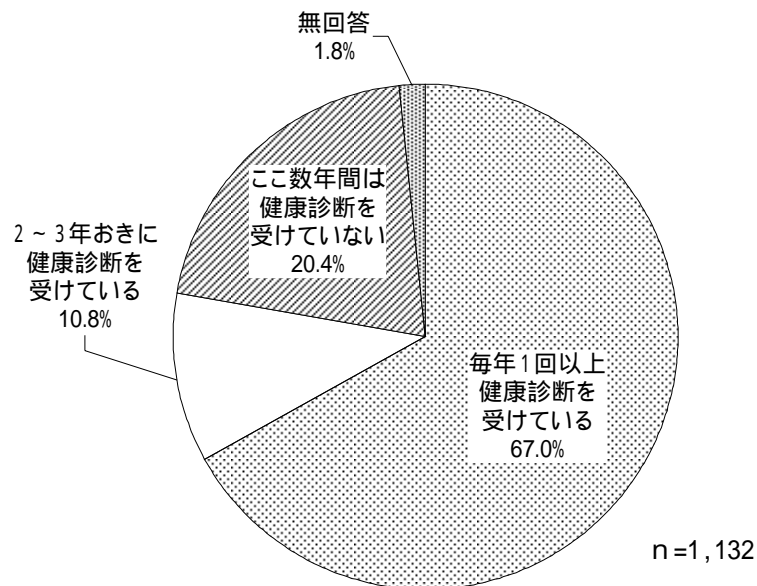
(2) 健康診断の受診頻度

毎年1回以上受診が7割弱

(全員の方に)

問7. あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(は1つ)

< 図2 - 4 > 全体



健康診断の受診頻度については、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人が67.0%を占めている。「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた人は10.8%、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は、20.4%となっている。(図2 - 4)

性別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は男性(71.2%)が女性(63.6%)より7.6ポイント高くなっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は女性22.9%、男性17.9%と、女性の割合が高くなっている。

(図2 - 5)

年齢別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は30～40歳代で6割弱となっているのと比べ、80歳以上では77.6%と高くなっている。また、「ここ数年間は健康診断はを受けていない」と答えた人は30歳代で29.5%と高くなっている。

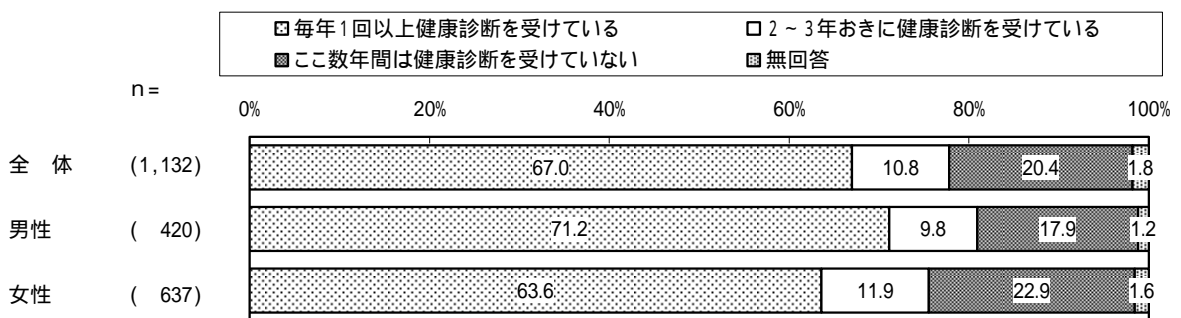
(図2 - 6)

職業別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は正規の会社員、公務員、団体職員で84.3%と高くなっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は、契約社員・パート・非常勤職員で33.1%と高くなっている。

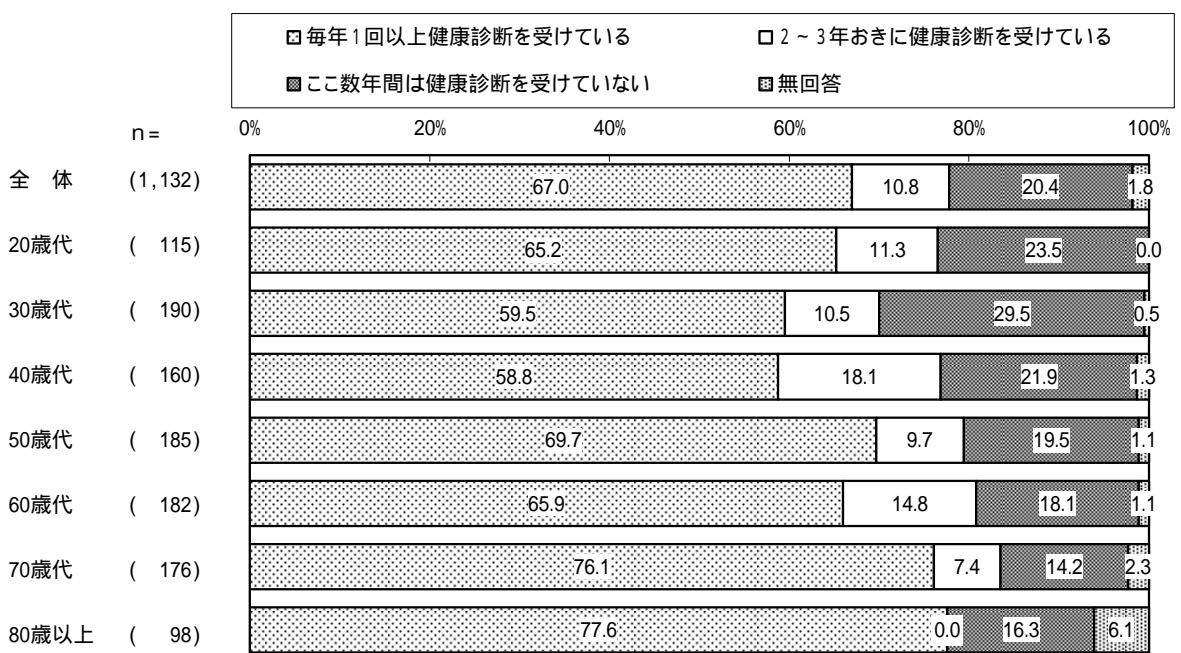
(図2 - 7)

かかりつけの診療所の有無(50ページ問13)別に見ると、「毎年1回以上健康診断を受けている」は、かかりつけの診療所を決めている人で78.2%となっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」は、かかりつけの診療所を決めていない人で34.0%と高くなっている。(図2 - 8)

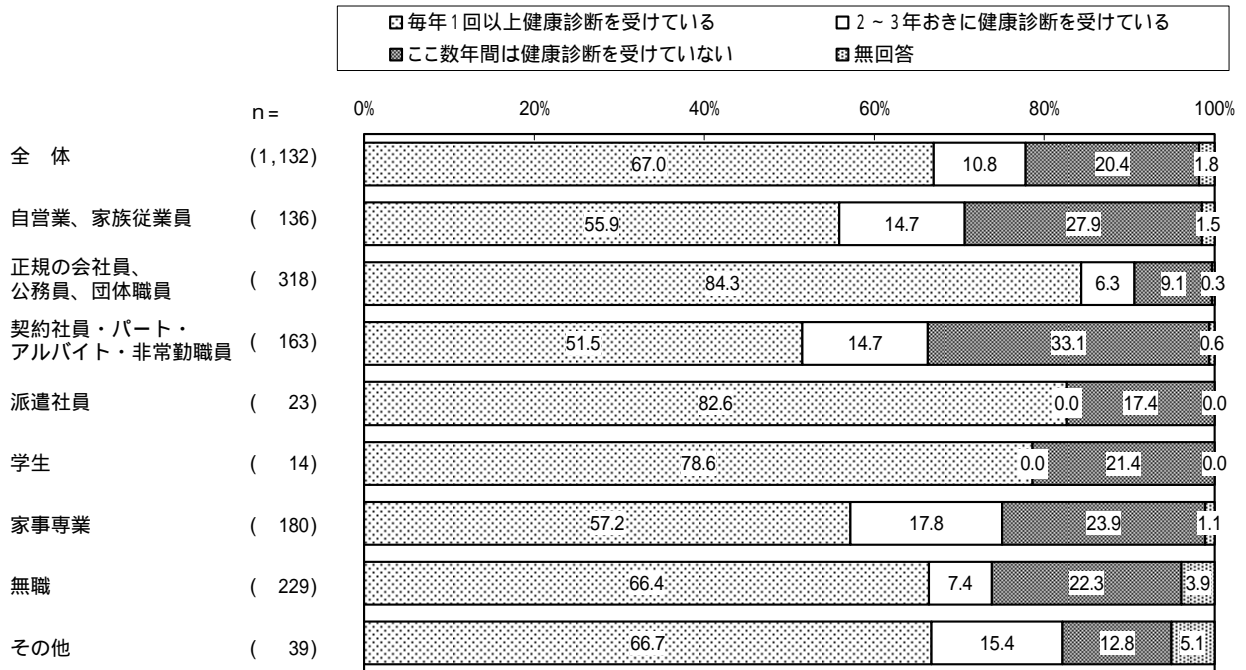
< 図2 - 5 > 性別



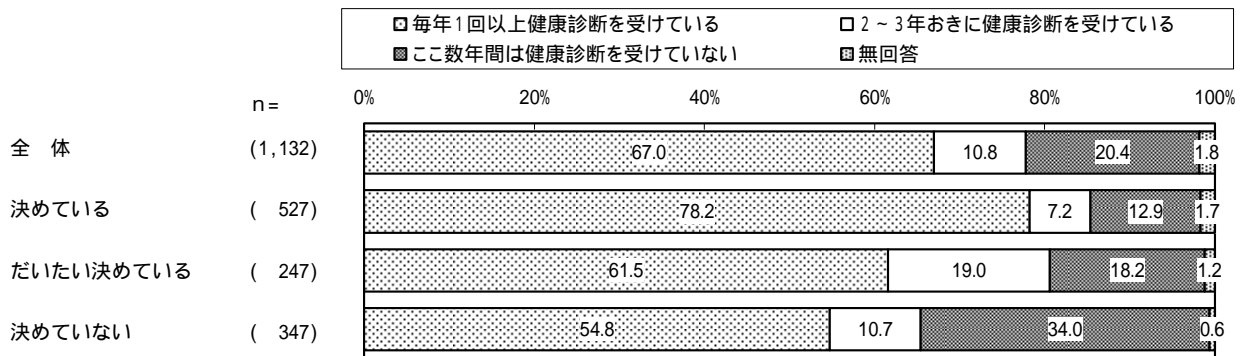
< 図2 - 6 > 年齢別



< 図 2 - 7 > 職業別



< 図 2 - 8 > かかりつけの診療所の有無（問 13）別



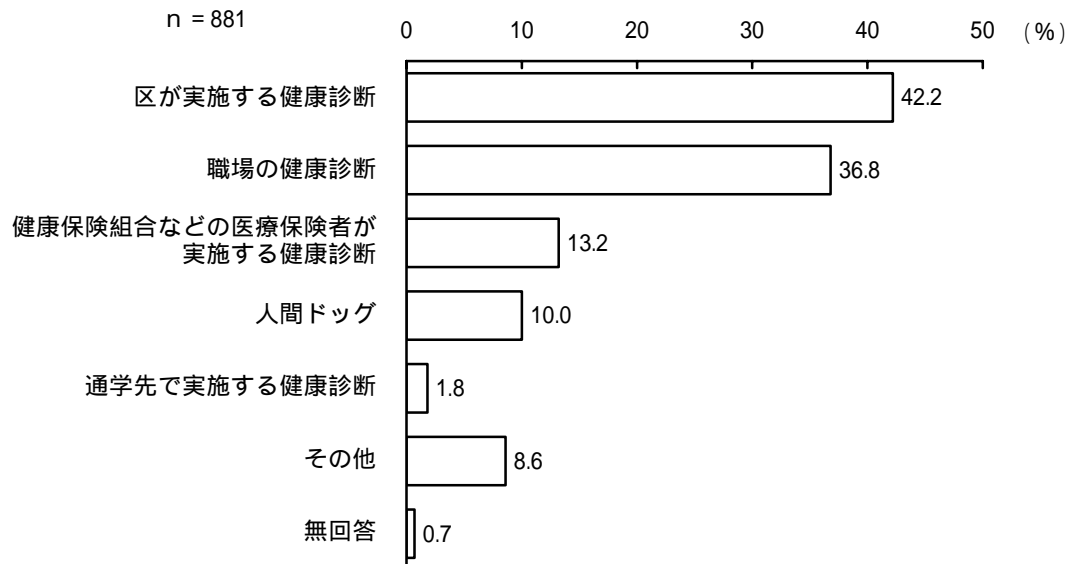
(3) 健康診断の受診場所

区が実施する健康診断が4割強、職場の健康診断が4割弱

(問7で「毎年1回以上健康診断を受けている」「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた方に)

問8. 健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに)

<図2-9> 全体



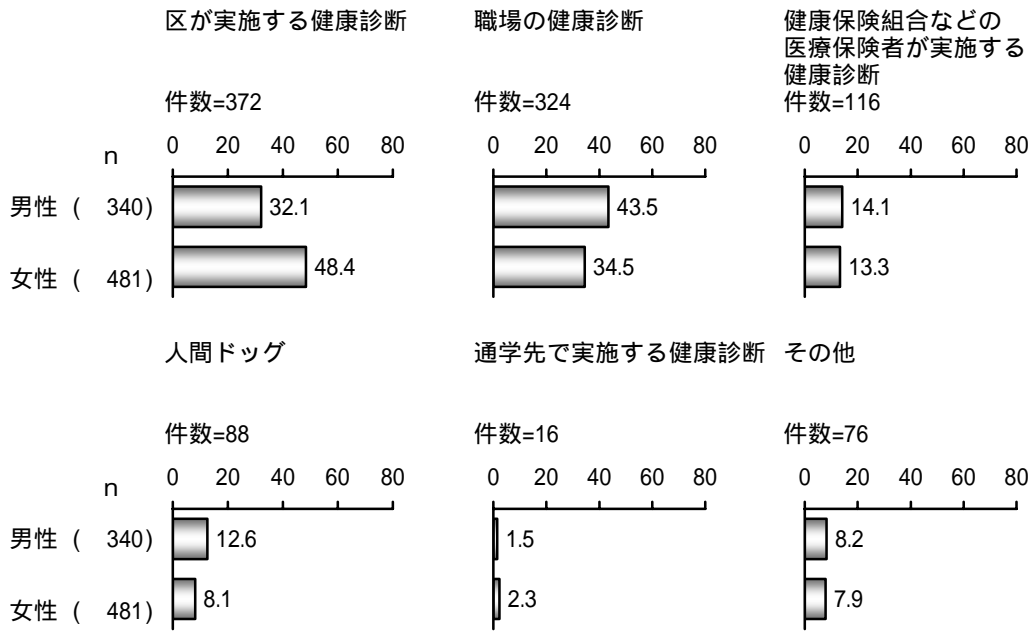
健康診断を受けている人に、健康診断の受診場所をたずねたところ、「区が実施する健康診断」と答えた人が42.2%で最も多く、次いで、「職場の健康診断」(36.8%)となっている。また、「健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断」(13.2%)、「人間ドッグ」(10.0%)、「通学先で実施する健康診断」(1.8%)となっている。(図2-9)

性別に見ると、女性は「区が実施する健康診断」が48.4%、男性は「職場の健康診断」が43.5%で最も多い。(図2-10)

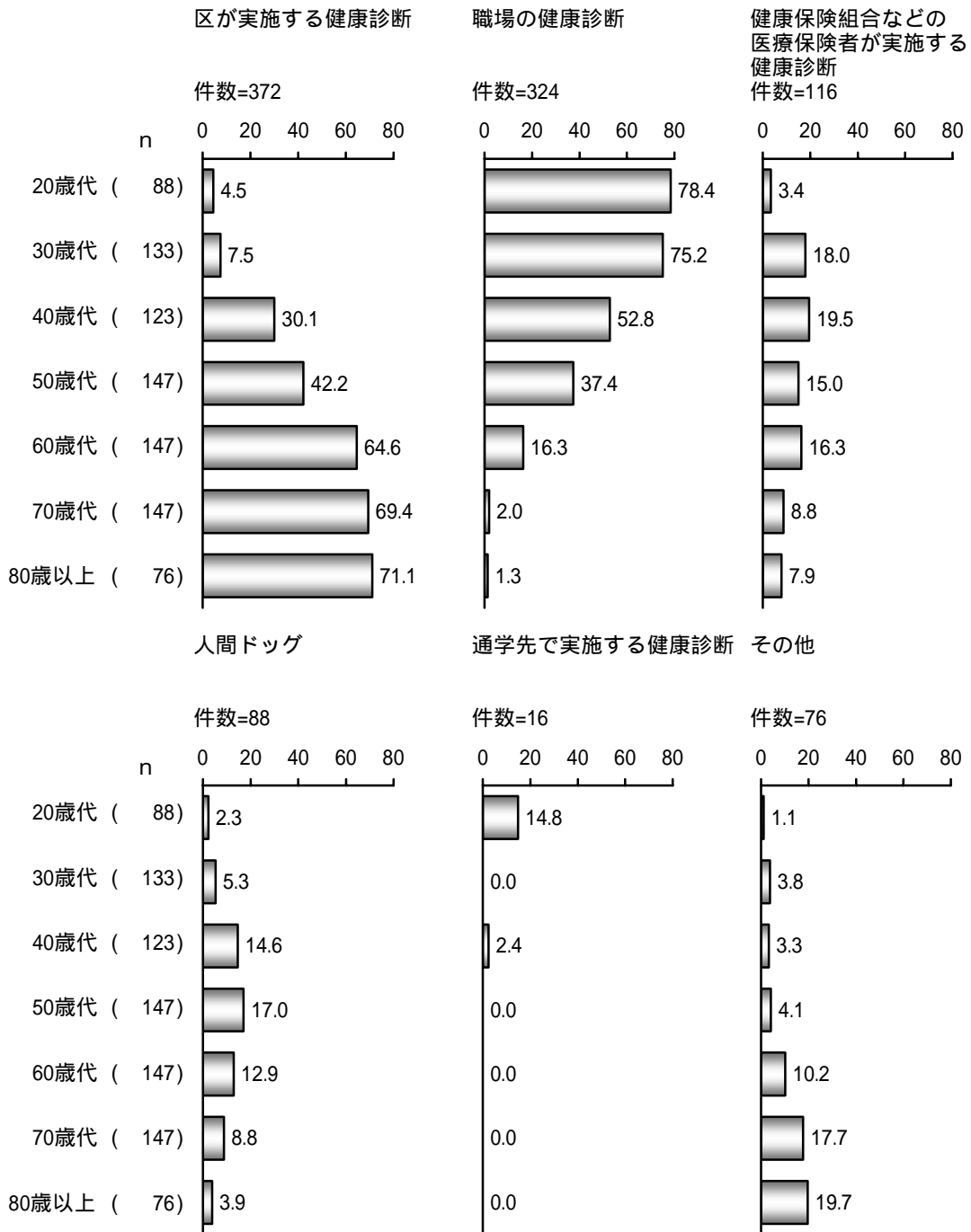
年齢別に見ると、「区が実施する健康診断」は、年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、70歳代以上では70%前後となっている。一方、「職場の健康診断」は年齢が若いほど高くなる傾向が見られ、20～30歳代で70%以上となっている。(図2-11)

職業別に見ると、「区が実施する健康診断」は家事専業と無職で、70%前後と高い。一方、「職場の健康診断」は正規の会社員、公務員、団体職員で81.3%と高く、派遣社員でも半数以上となっている。(図2-12)

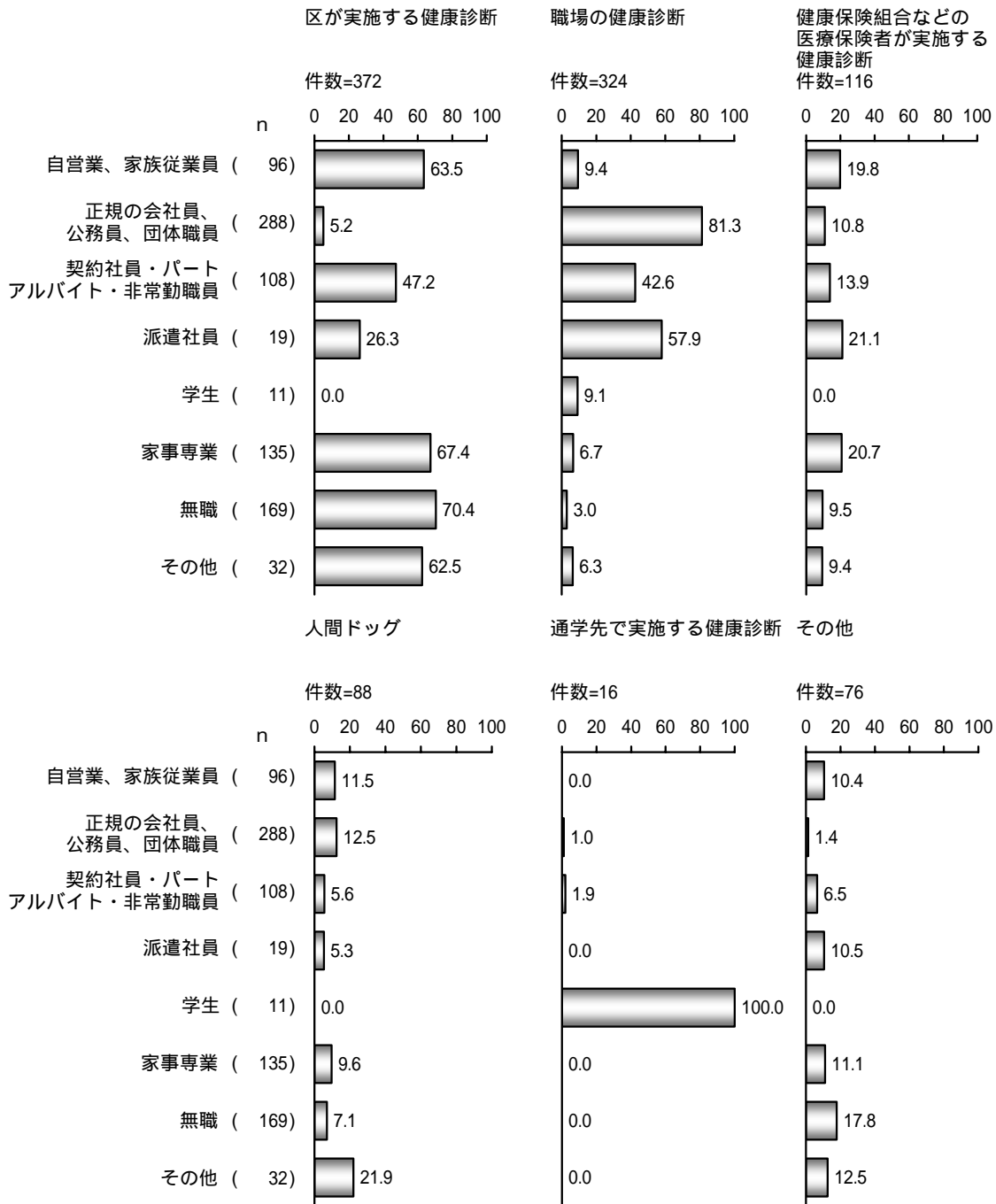
< 図 2 - 10 > 性別



< 図 2 - 11 > 年齢別



< 図 2 - 12 > 職業別



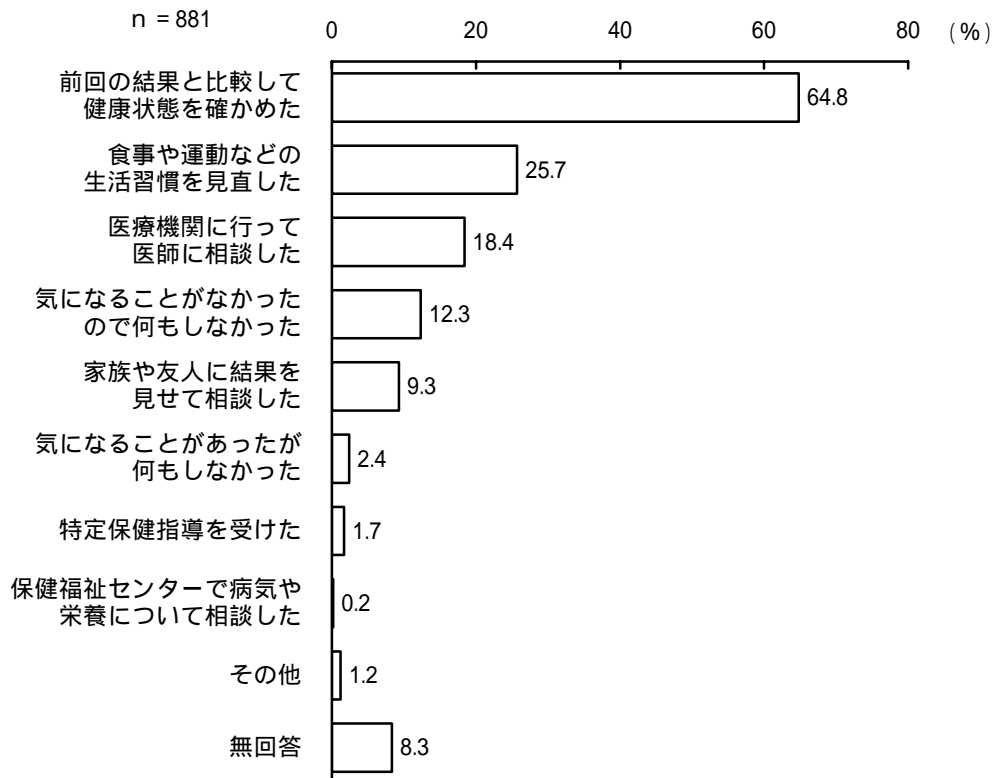
(4) 健康診断結果の活用

前回結果と比較した人が6割半

(問7で「毎年1回以上健康診断を受けている」「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた方に)

問9. 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに)

<図2-13> 全体

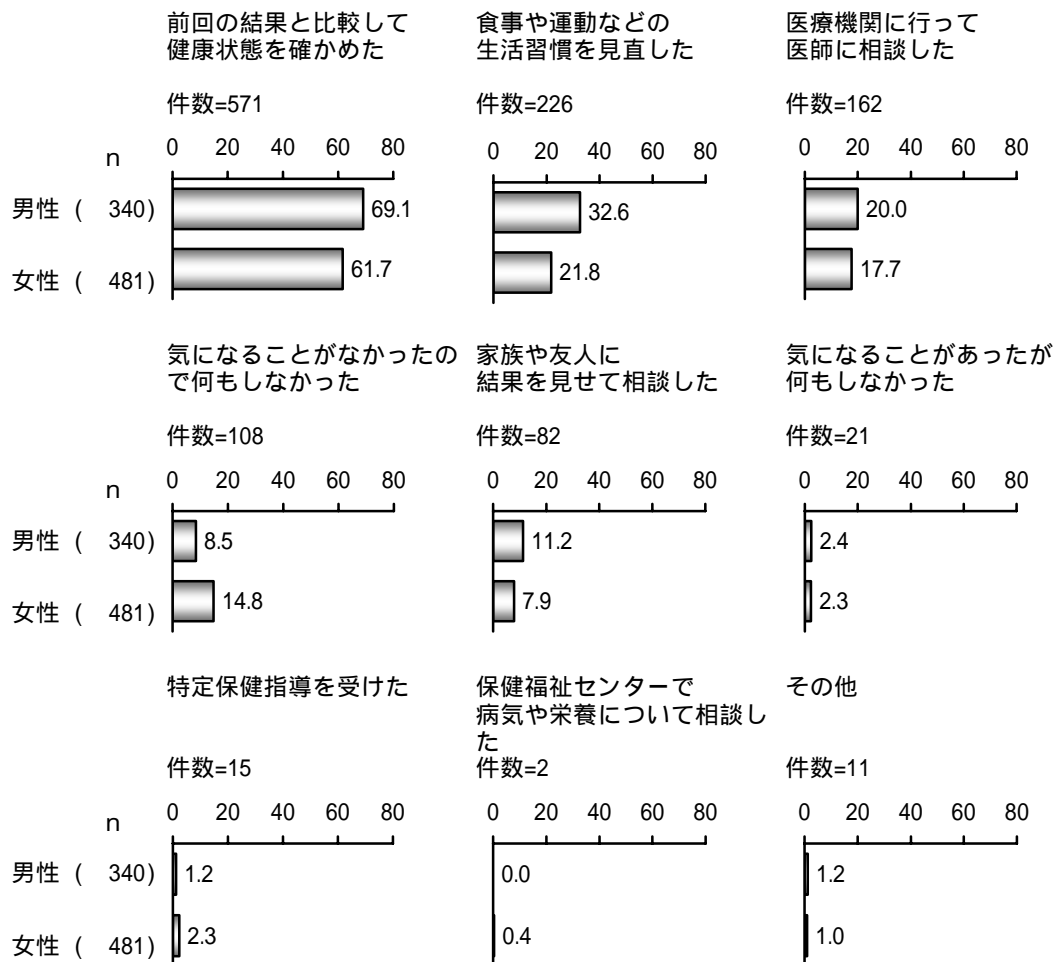


健康診断を受けている人に、健康診断の結果の活用についてたずねたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」(64.8%)と答えた人が最も多くなっている。以下、「食事や運動などの生活習慣を見直した」(25.7%)、「医療機関に行って医師に相談した」(18.4%)、「気になることがなかったので何もしなかった」(12.3%)、「家族や友人に結果を見せて相談した」(9.3%)、「気になることがあったが何もしなかった」(2.4%)、「特定保健指導を受けた」(1.7%)、「保健福祉センターで病気や栄養について相談した」(0.2%)の順になっている。(図2-13)

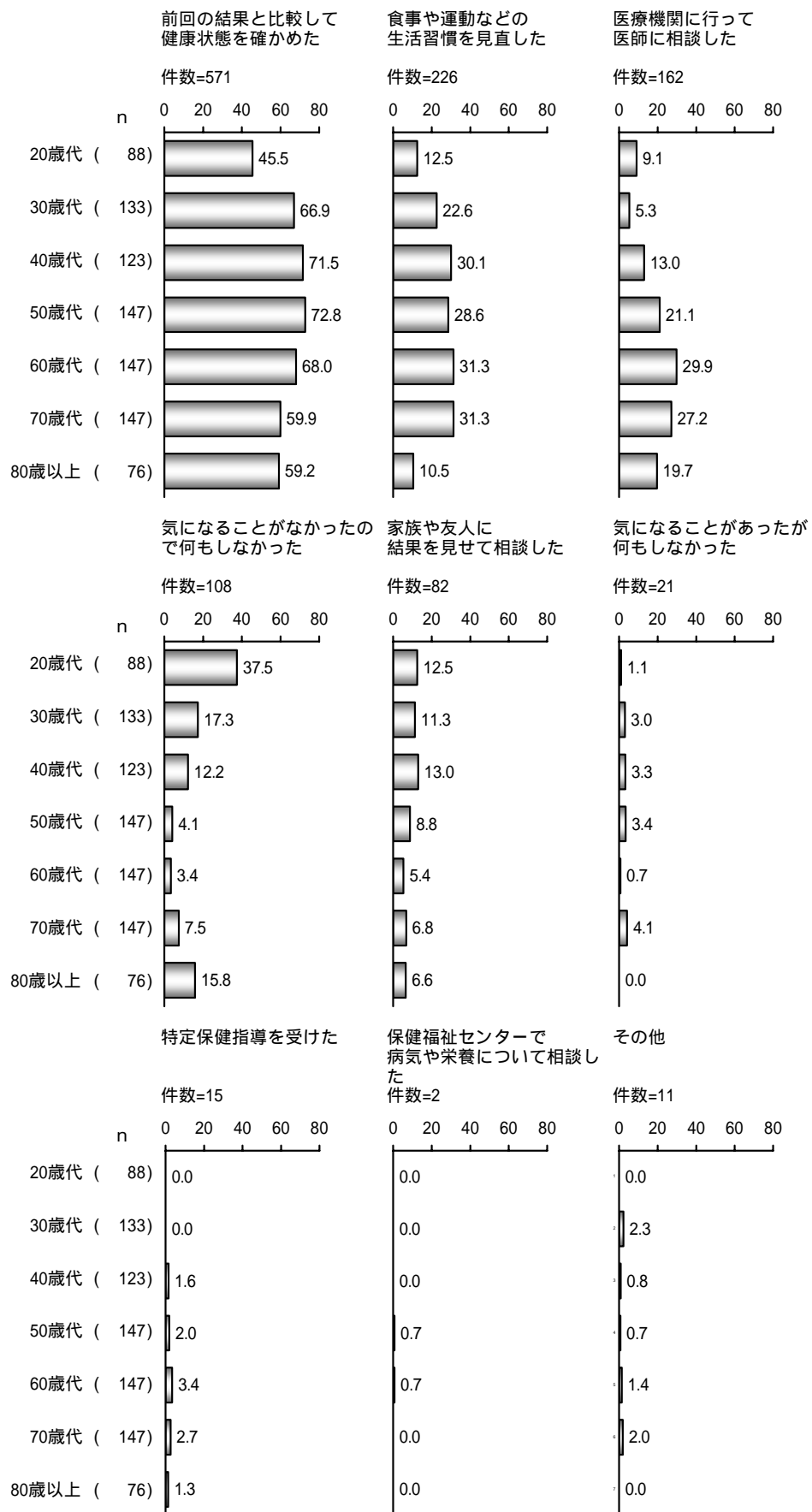
性別に見ると、男性、女性ともに、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」と答えた人が最も高くなっているが、7.4ポイントの差で男性の方が高い。また全体的に男性の方が相談している割合が高くなっている。(図2-14)

年齢別に見ると、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」と答えた人は、40歳代と50歳代で70%以上となっている。一方、「気になることがなかったので何もしなかった」と答えた人は、20歳代で37.5%と高くなっている。(図2-15)

< 図2-14 > 性別



< 図 2 - 15 > 年齢別



(5) 健康診断を受けなかった理由

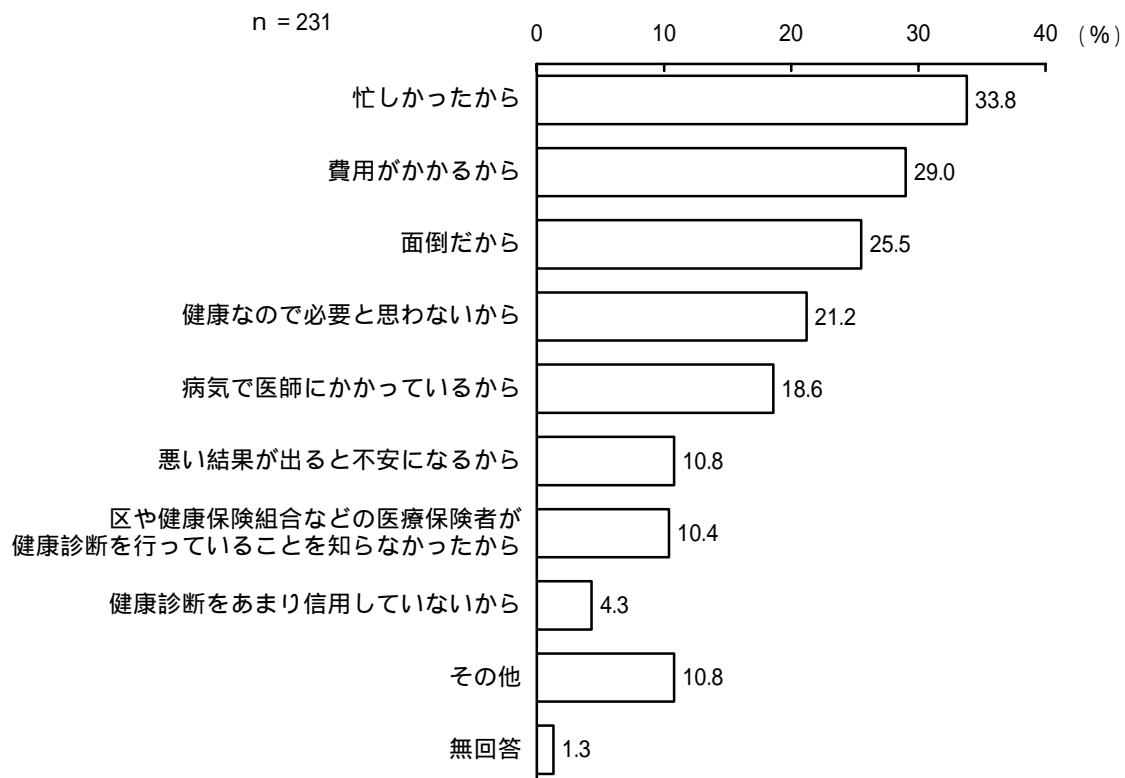
「忙しかったから」が3割強

(問7で「ここ数年間は健康診断を受けていない」に つけた方に)

問10. あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに)

< 図 2 - 16 > 全体

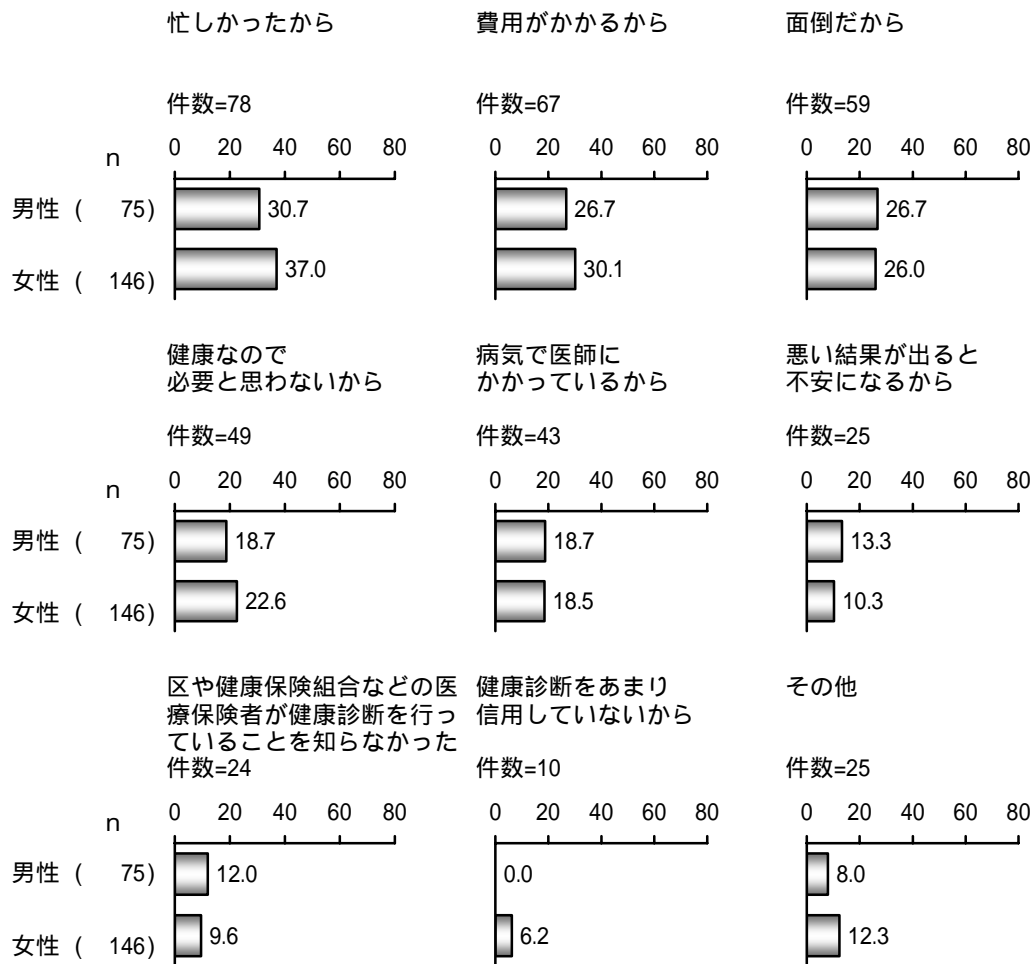


健康診断を受けなかった理由としては、「忙しかったから」(33.8%) が最も多く、次いで、「費用がかかるから」(29.0%)、「面倒だから」(25.5%)、「健康なので必要と思わないから」(21.2%)、「病気で医師にかかっているから」(18.6%)、「悪い結果が出ると不安になるから」(10.8%)、「区や健康保険組合などの医療保険者が健康診断を行っていることを知らなかったから」(10.4%)、「健康診断をあまり信用していないから」(4.3%) の順になっている。(図 2 - 16)

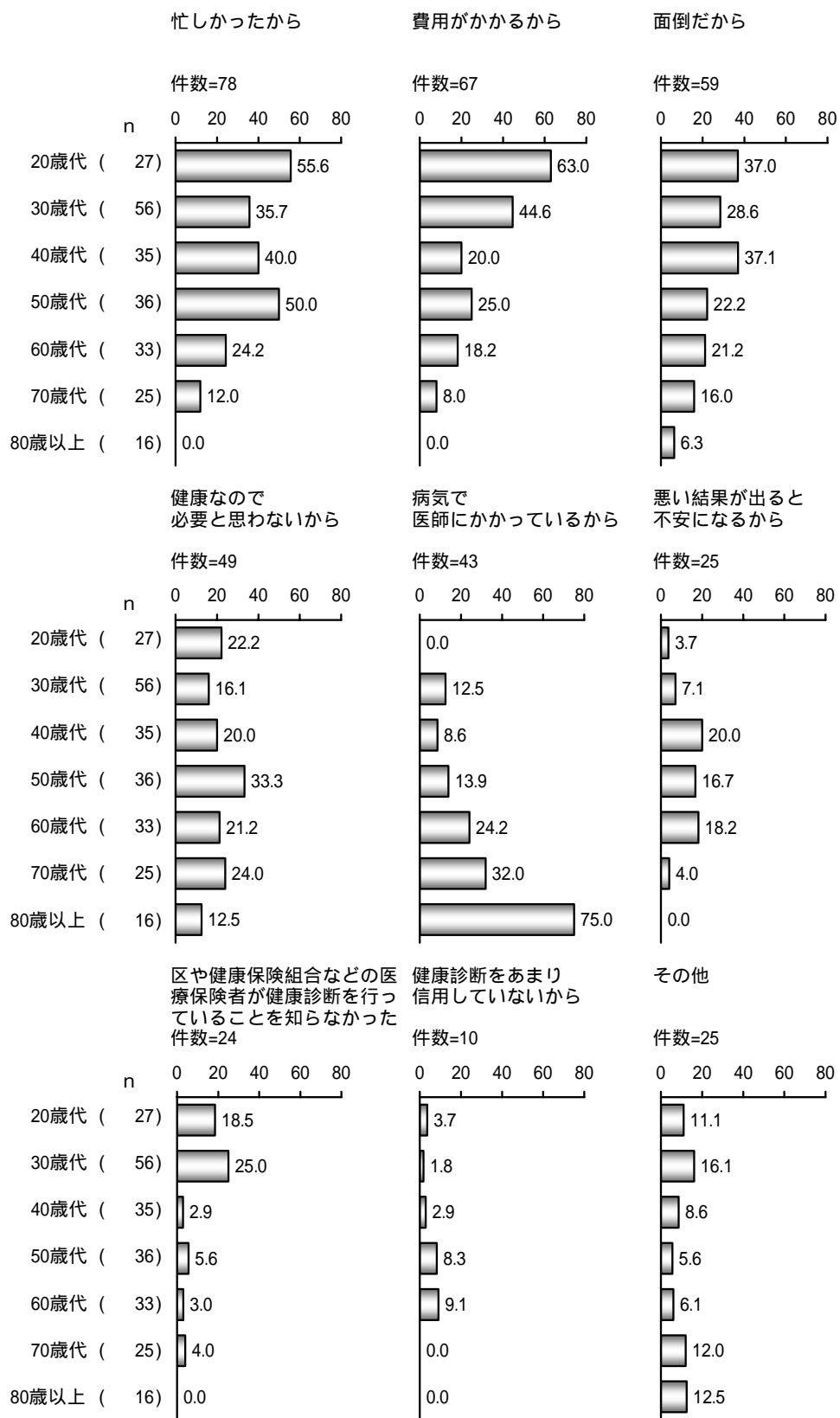
性別に見ると、女性、男性ともに、「忙しかったから」と答えた人が最も高くなっているが、6.3ポイントの差で女性の方が高い。また全体的に女性の方が割合が高くなっている傾向にある。(図 2 - 17)

年齢別に見ると、「忙しかったから」、「費用がかかるから」と答えた人は、20歳代で60%前後と高くなっている。また、「病気で医師にかかっているから」と答えた人は、80歳以上で75.0%と高くなっている。(図2-18)

< 図2-17 > 性別



< 図 2 - 18 > 年齢別



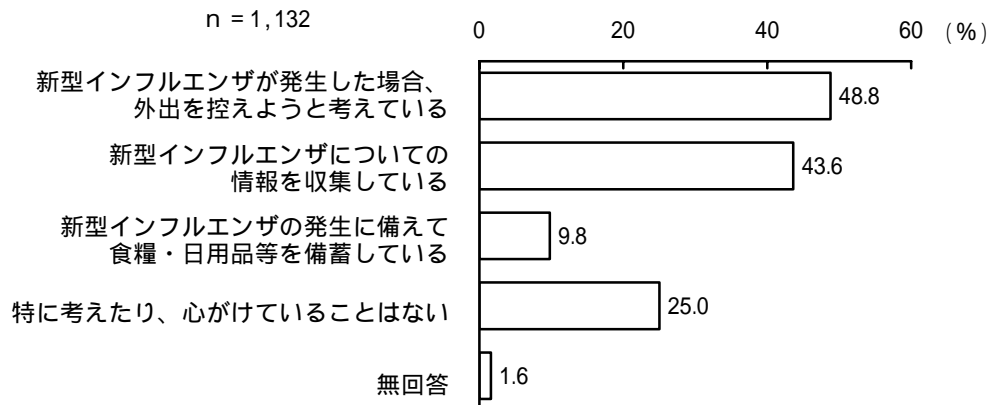
(6) 新型インフルエンザについて考えたり、心がけていること

「外出を控える」が5割弱、特に考えていない人が2割半

(全員の方に)

問11. あなたが、新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることはなんですか。(あてはまるものすべてに)

< 図 2 - 19 > 全体



新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることとしては、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」(48.8%)が最も多くなっている。また、「新型インフルエンザについての情報を収集している」は43.6%であるが、「新型インフルエンザの発生に備えて食糧・日用品等を備蓄している」(9.8%)は少ない。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人が25.0%となっている。

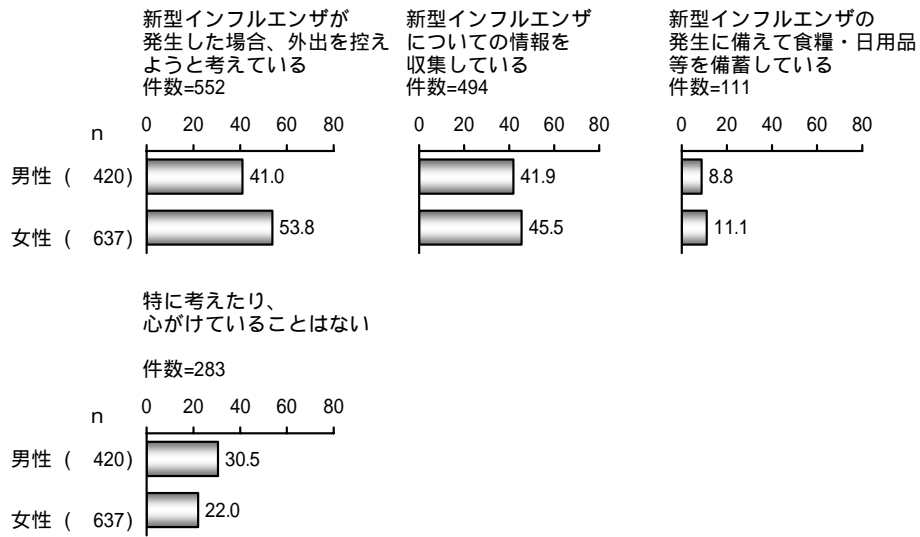
(図 2 - 19)

性別に見ると、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」と答えた人は女性(53.8%)が男性(41.0%)より12.8ポイント高くなっている。また「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人では男性(30.5%)が女性(22.0%)より8.5ポイント高くなっている。(図 2 - 20)

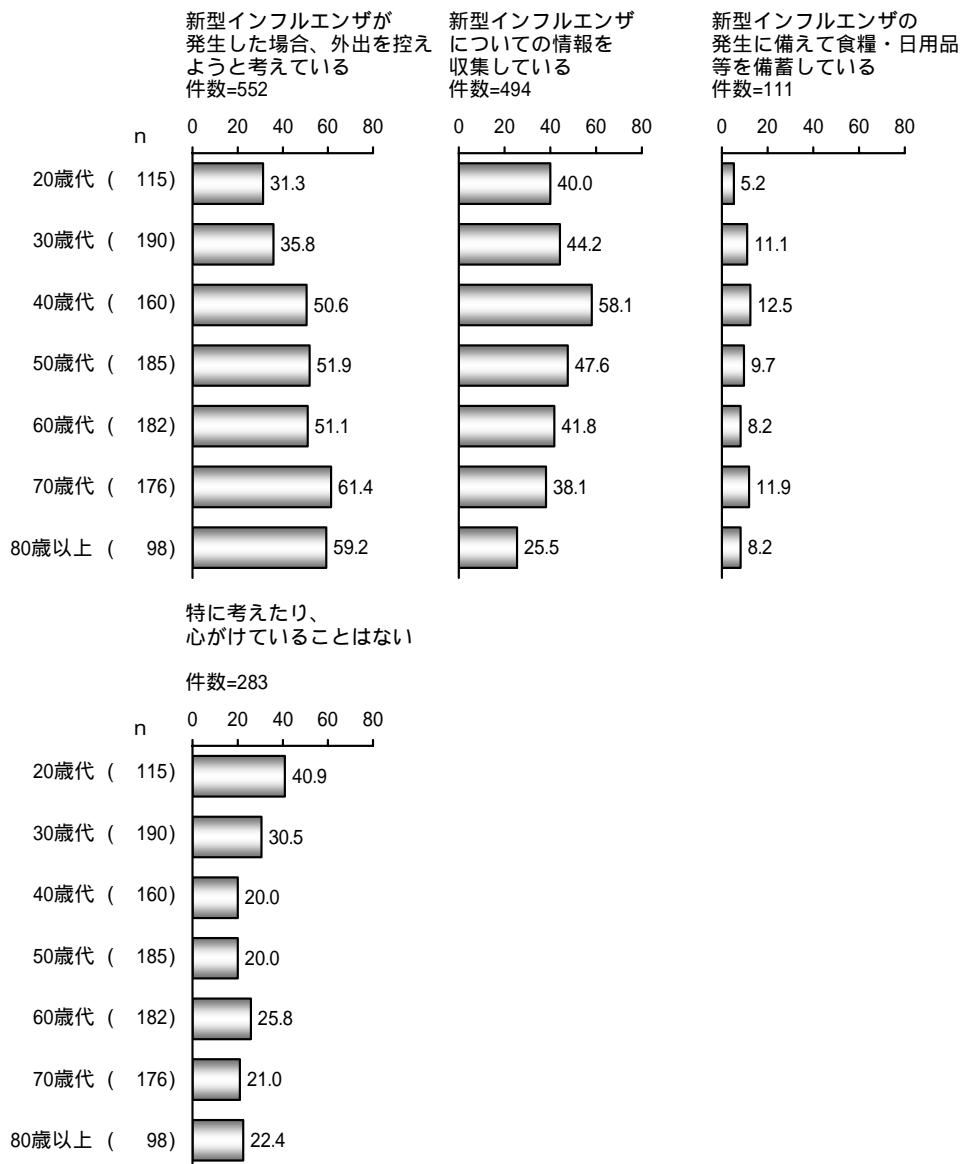
年齢別に見ると、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」と答えた人は70歳代以上で60%前後と高くなっている。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人は20歳代で40%と高くなっている。(図 2 - 21)

職業別に見ると、「新型インフルエンザが発生した場合、外出を控えようと考えている」は家事専業で7割弱と高い。また、「新型インフルエンザについての情報を収集している」は派遣社員で6割半と高くなっている。(図 2 - 22)

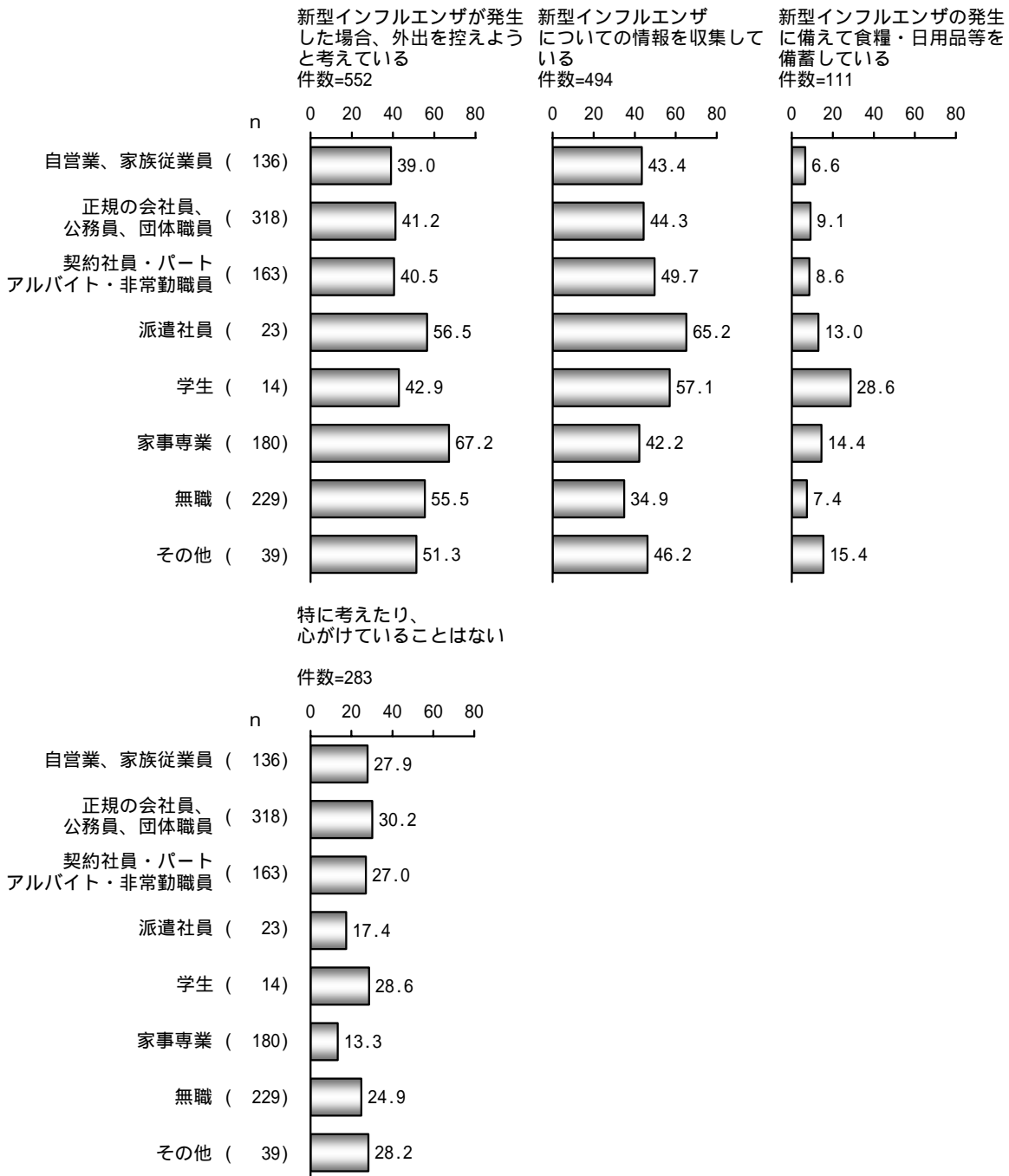
< 図 2 - 20 > 性別



< 図 2 - 21 > 年齢別



< 図 2 - 22 > 職業別



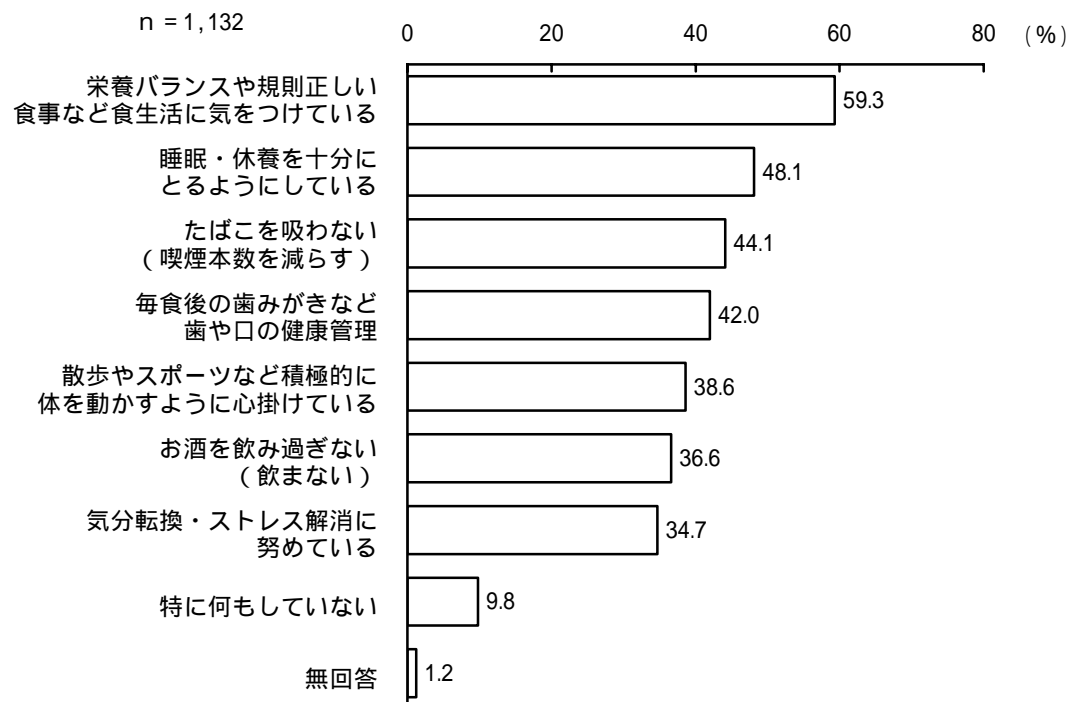
(7) 生活習慣病予防のために、実行していること

「食生活に気をつける」が6割、「十分な睡眠・休養」が5割弱

(全員の方に)

問12. がん、心臓病、脳卒中、糖尿病など、日頃の生活習慣が密接に関係する病気を「生活習慣病」と呼んでいます。あなたが、生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに)

<図2-23> 全体



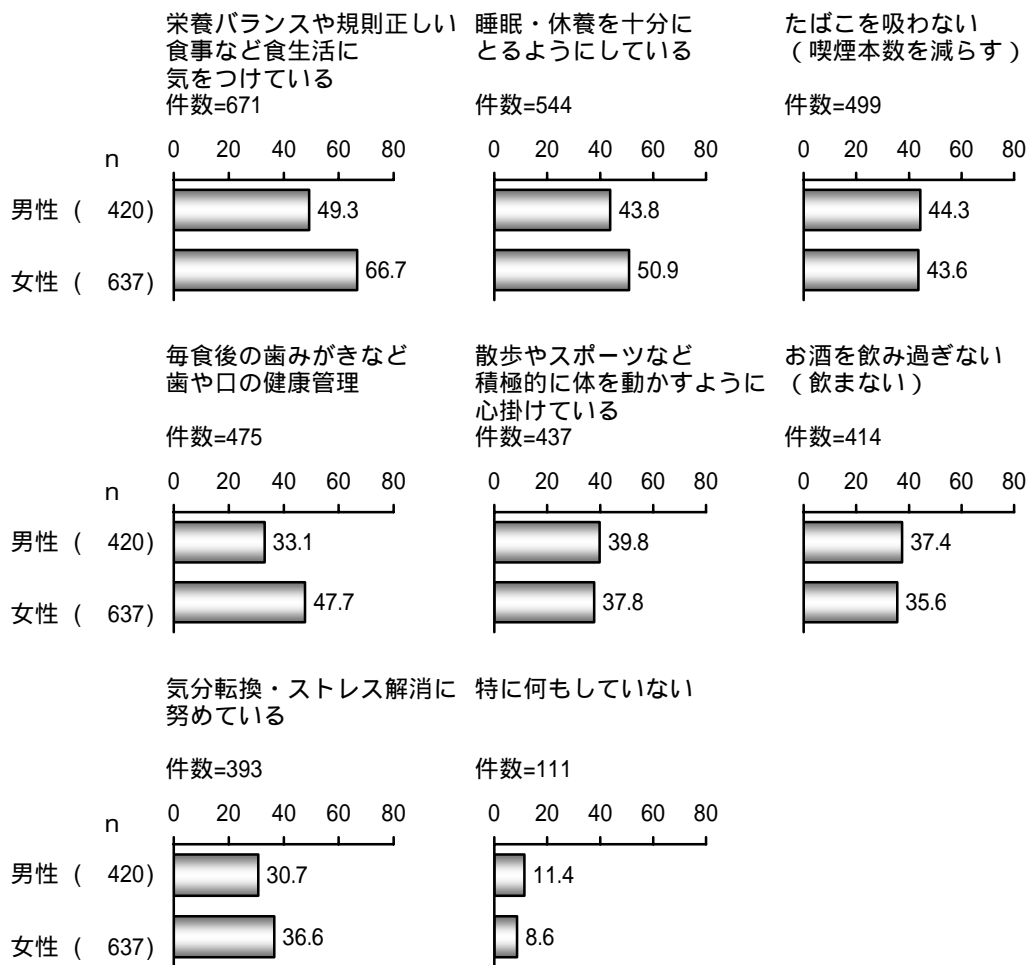
生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることとしては、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(59.3%)が最も高く、次いで、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」(48.1%)、「たばこを吸わない(喫煙本数を減らす)」(44.1%)、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理」(42.0%)が4割以上で続いている。以下「散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている」(38.6%)、「お酒を飲みすぎない(飲まない)」(36.6%)、「気分転換・ストレス解消に努めている」(34.7%)も3割以上となっている。(図2-23)

性別に見ると、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(女性66.7%、男性49.3%)、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理」(女性47.7%、男性33.1%)では、それぞれ女性が男性より10ポイント以上高くなっている。(図2-24)

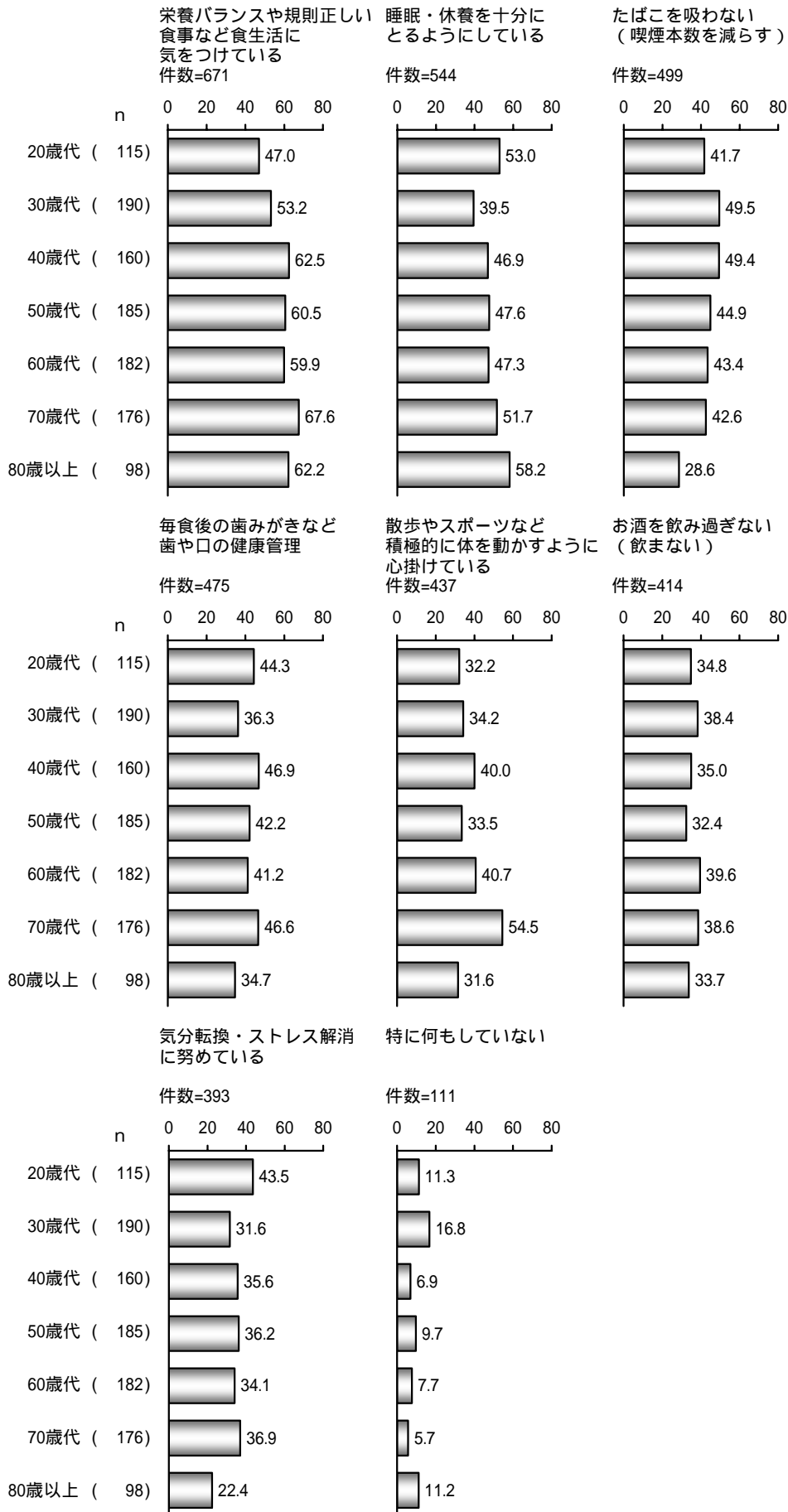
年齢別に見ると、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」と答えた人は70歳代で67.6%となっている。(図2 - 25)

世帯構成別に見ると、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」は3世代世帯で56.4%となっている。(図2 - 26)

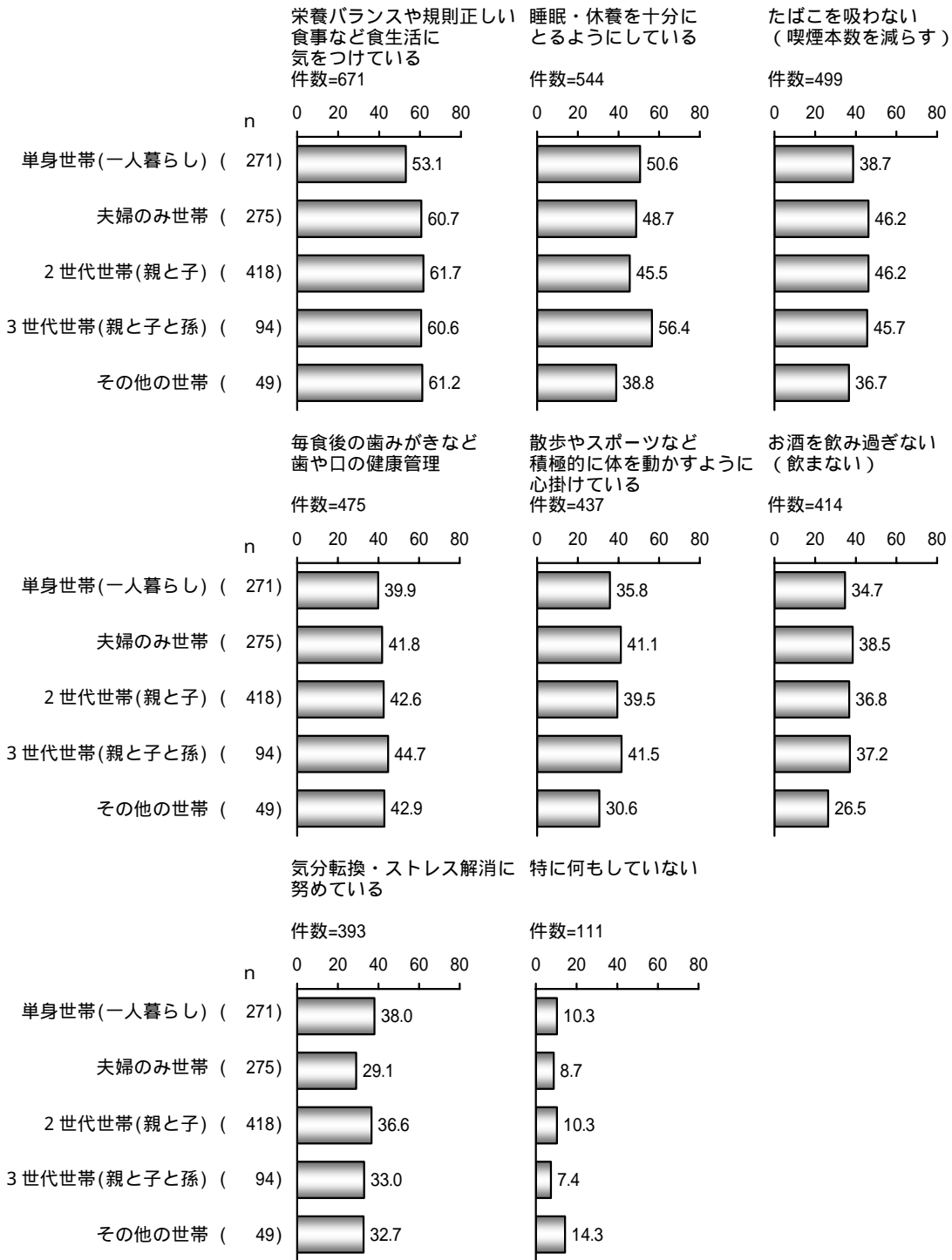
< 図2 - 24 > 性別



< 図 2 - 25 > 年齢別



< 図 2 - 26 > 世帯構成別



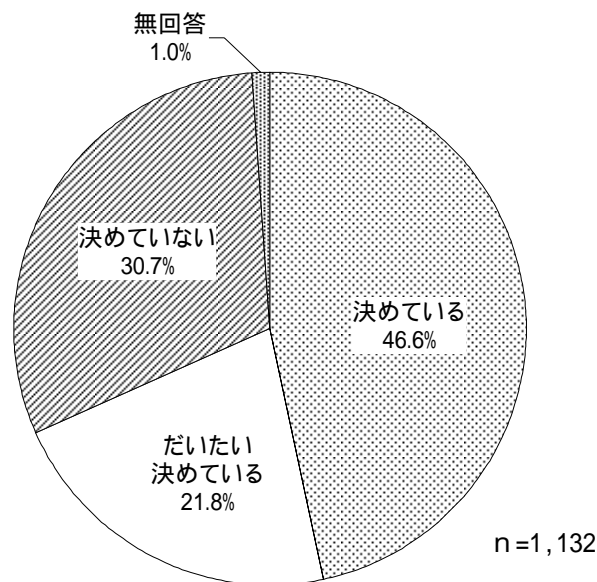
(8) かかりつけの診療所の有無

「決めている」と「だいたい決めている」を合わせると7割弱

(全員の方に)

問13 . あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所 (医院・クリニック) を決めていますか。(1 は 1 つ)

< 図 2 - 27 > 全体

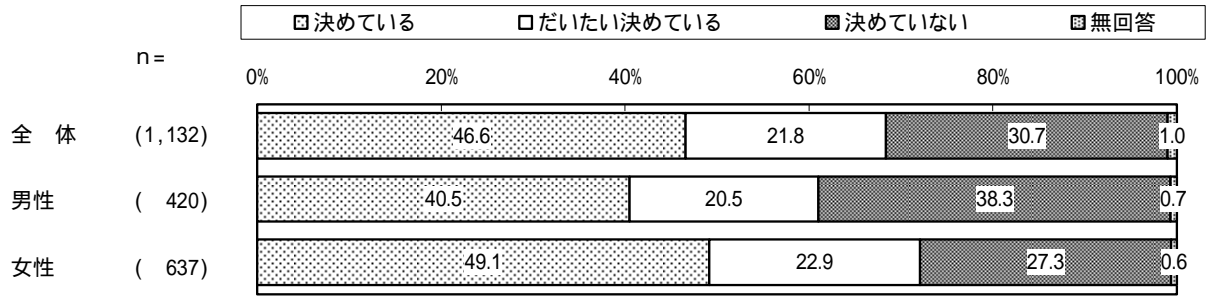


自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所 (医院・クリニック) を「決めている」と答えた人が 46.6%と約半数を占める。「だいたい決めている」と答えた人は 21.8%で「決めていない」と答えた人は 30.7%となっている。(図 2 - 27)

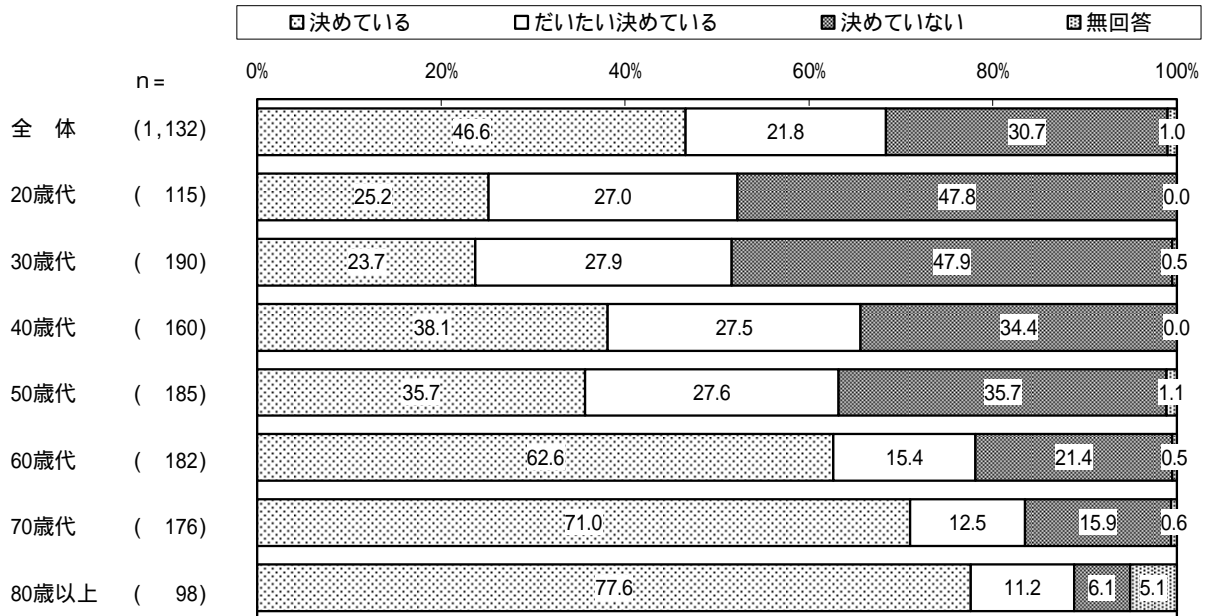
性別に見ると、「決めている」と答えた人は男女とも 4 割を超えている。一方、「決めていない」と答えた人は男性 (38.3%) が女性 (27.3%) より 11.0 ポイント高くなっている。(図 2 - 28)

年齢別に見ると、「決めている」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、特に 70 歳代以上では 70% 台と高くなっている。(図 2 - 29)

< 図 2 - 28 > 性別



< 図 2 - 29 > 年齢別



(9) かかりつけの診療所との信頼関係

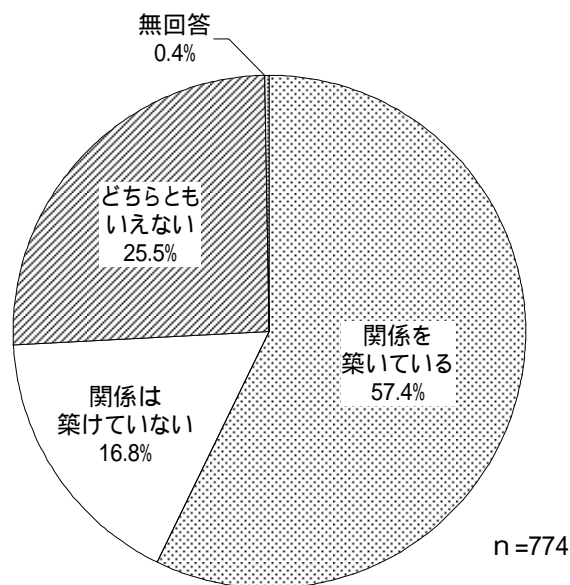
かかりつけの診療所（医院・クリニック）との間に関係を築いている人は6割弱

（問13で「決めている」「だいたい決めている」に つけた方に）

問14. かかりつけの診療所（医院・クリニック）との関係については、普段から気軽に相談し、あなたや家族の健康状態を踏まえた適切な治療やアドバイスが受けられる、また、必要ならばふさわしい専門医を紹介してくれるという関係を築いていくことが大切です。

あなたは、かかりつけの診療所（医院・クリニック）との間にそうした関係を築いていますか。（ は1つ）

< 図 2 - 30 > 全体

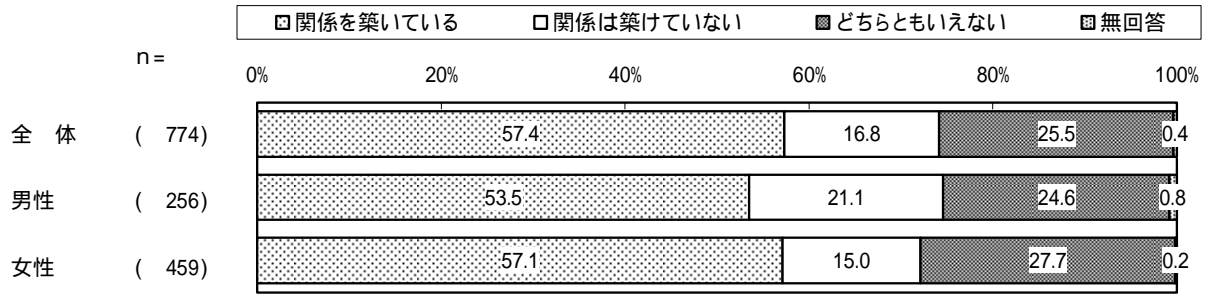


かかりつけの診療所（医院・クリニック）との間に「関係を築いている」と答えた人が57.4%と6割弱となっている。一方、「関係は築けていない」と答えた人は16.8%となっている。（図2 - 30）

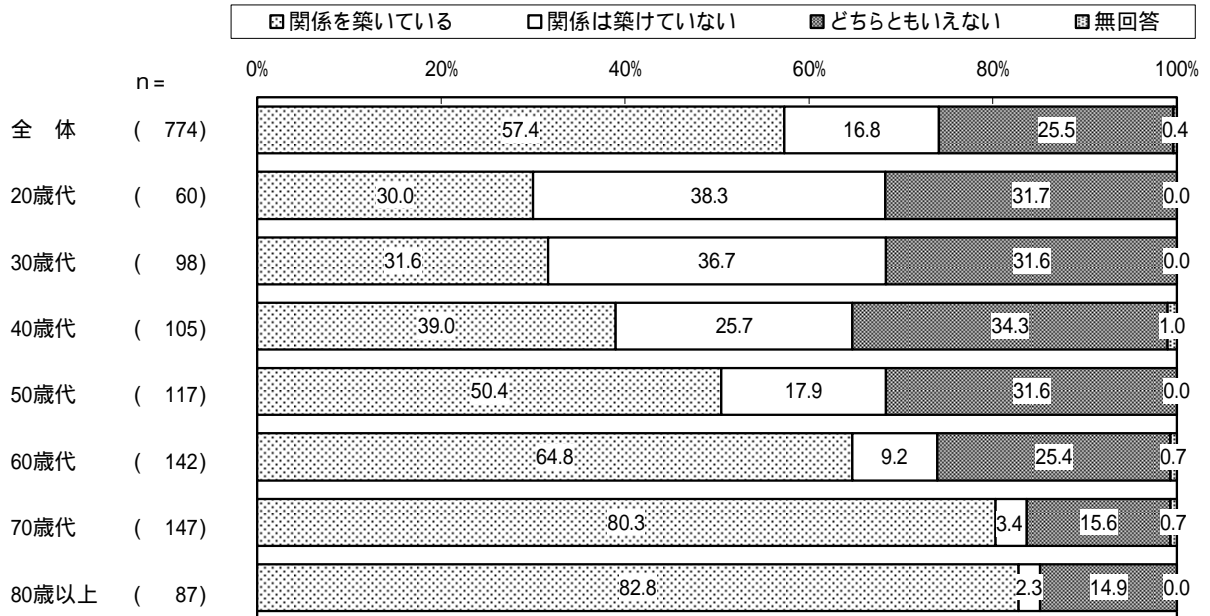
性別に見ると、「関係を築いている」答えた人は男女とも半数を超えている。一方、「関係は築けていない」と答えた人は男性（21.1%）が女性（15.0%）より6.1ポイント高くなっている。（図2 - 31）

年齢別に見ると、「関係を築いている」答えた人は年齢が上がるほど高くなっており、特に70歳代以上では80%を超えている。（図2 - 32）

< 図 2 - 31 > 性別



< 図 2 - 32 > 年齢別



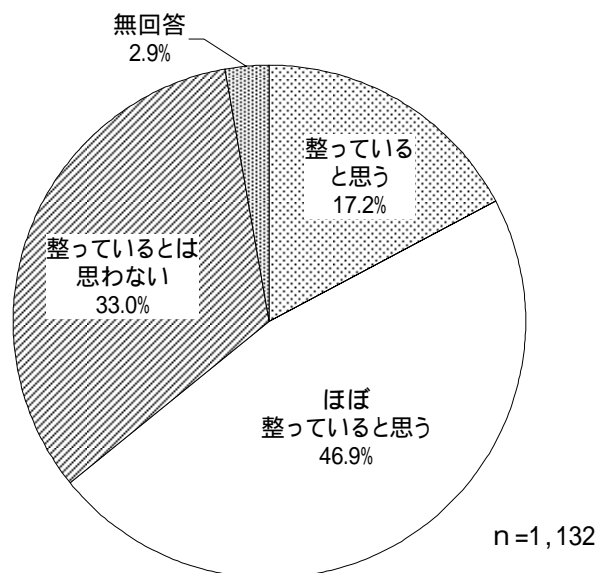
(10) 地域の救急医療体制が整っているか

「整っていると思う」と「ほぼ整っていると思う」を合わせると6割半

(全員の方に)

問15. あなたは救急患者が症状に応じた適切な医療を受けられる環境が、身近な地域に整っていると思いますか。(は1つ)

<図2 - 33> 全体



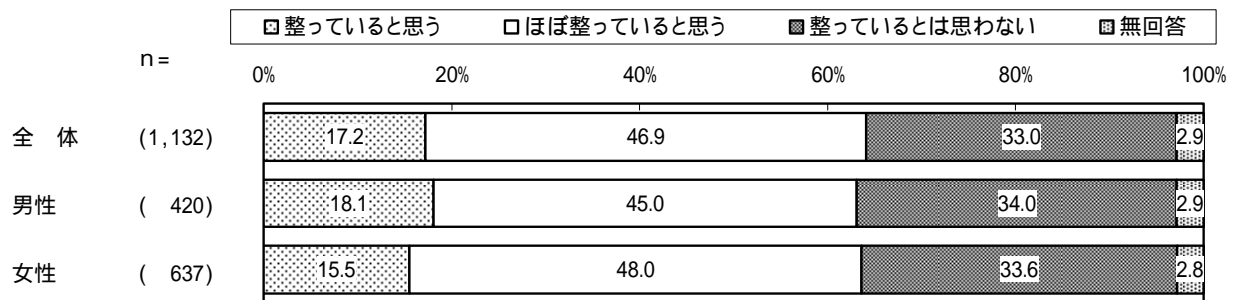
救急患者が症状に応じた適切な医療を受けられる環境が、身近な地域に「整っていると思う」と答えた人は17.2%、「ほぼ整っていると思う」と答えた人は46.9%となっており、この両者を合わせた“おおむね整っていると思う”が6割半となっている。一方、「整っているとは思わない」と答えた人は33.0%となっている。(図2 - 33)

性別に見ると、大きな差は見られない。(図2 - 34)

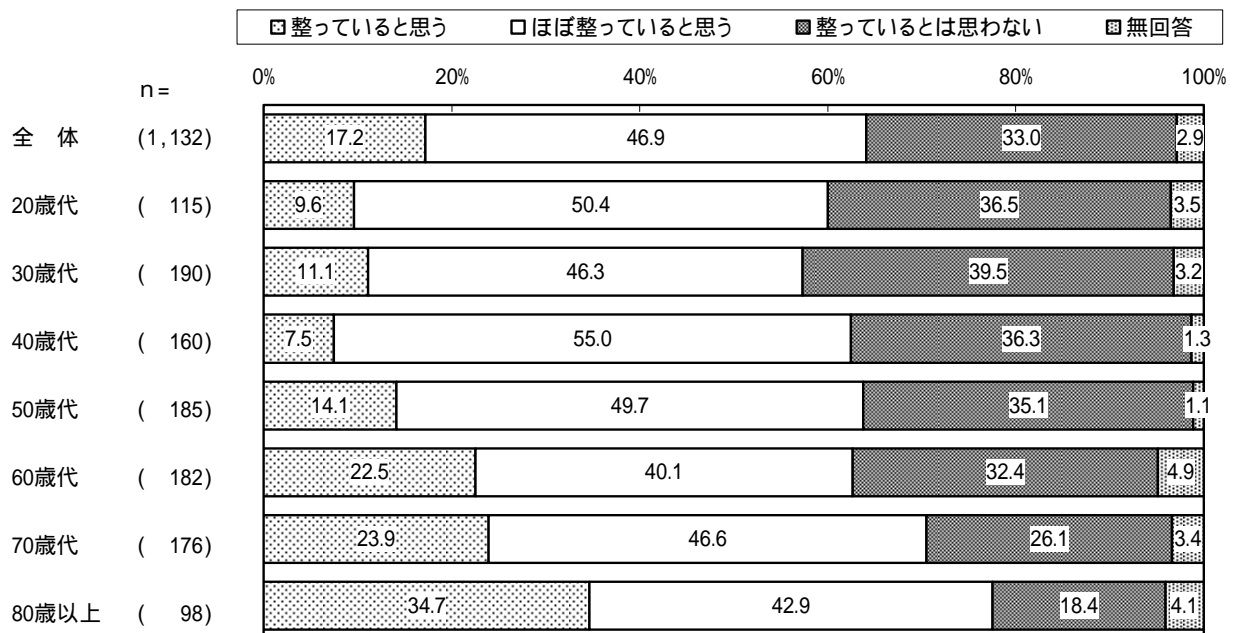
年齢別に見ると、“おおむね整っていると思う”は70歳以上では70%台と高くなっている。また、「整っているとは思わない」と答えた人は20~50歳代で30%台後半となっている。(図2 - 35)

居住地域別に見ると、“おおむね整っていると思う”は弥生町・新井地域で約8割と高く、一方、「整っているとは思わない」は沼袋・大和町地域で4割半と高くなっている。(図2 - 36)

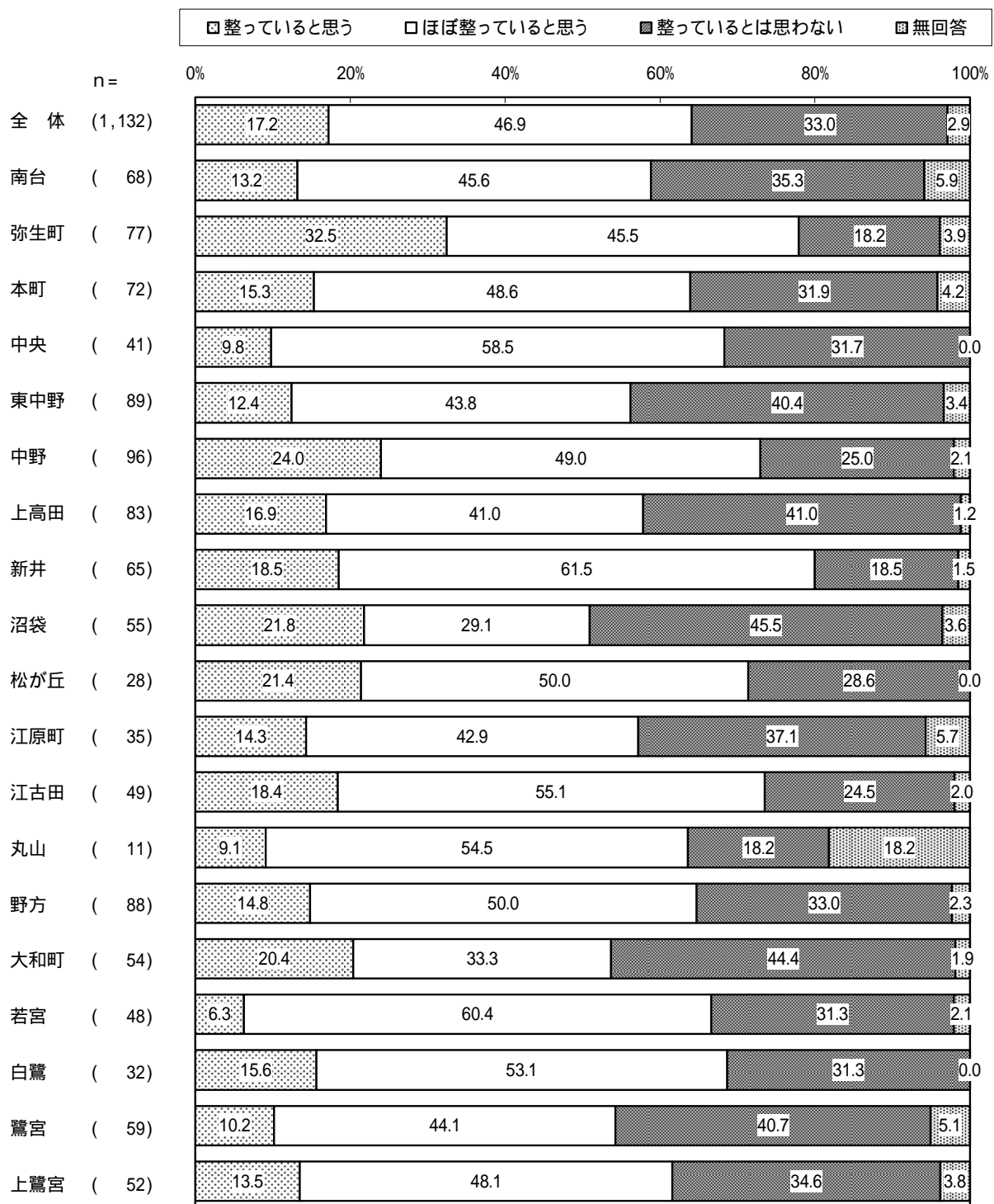
< 図 2 - 34 > 性別



< 図 2 - 35 > 年齢別



< 図 2 - 36 > 居住地域別



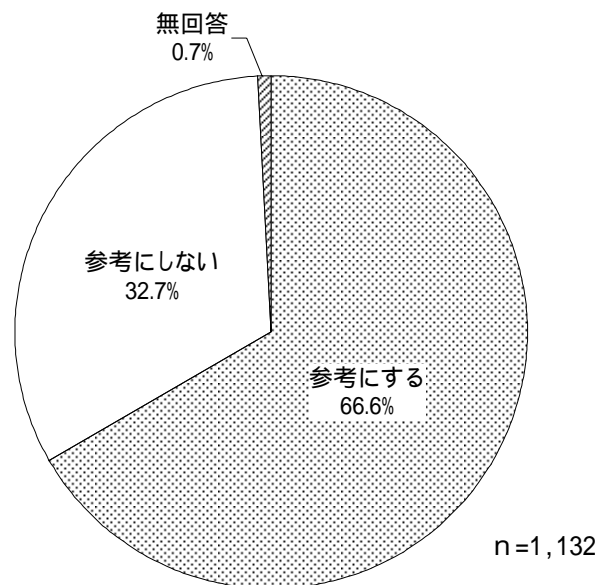
(11) 栄養成分表示の参考

栄養成分の表示を参考にすると答えた人は7割弱

(全員の方に)

問16. あなたは、食品や調理済の料理を購入する時または外食の時に、栄養成分の表示があれば参考にしますか。(は1つ)

<図2 - 37> 全体



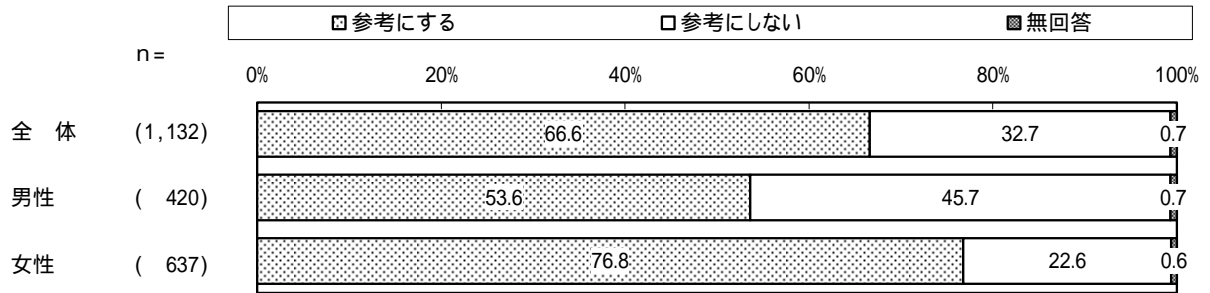
食品や調理済の料理を購入する時や外食の時に、栄養成分の表示を「参考にする」と答えた人が66.6%を占めている。一方、「参考にしない」と答えた人は32.7%となっている。

(図2 - 37)

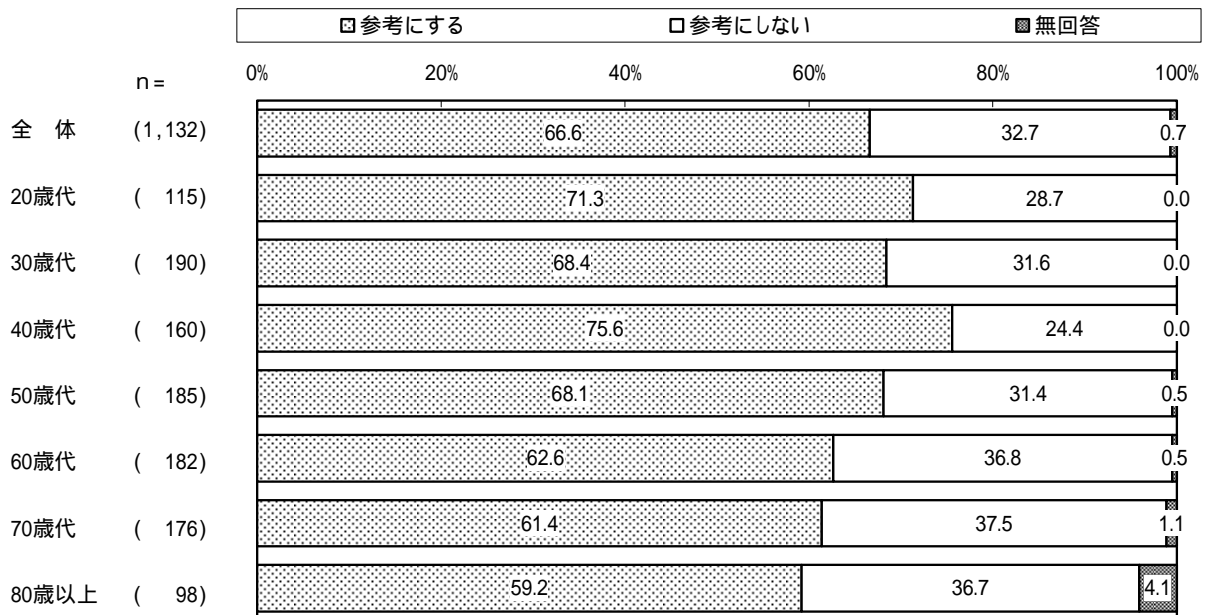
性別に見ると、「参考にする」と答えた人は女性(76.8%)が男性(53.6%)より23.2ポイント高くなっている。(図2 - 38)

年齢別に見ると、「参考にする」は40歳代では7割半ばとなっている。一方、「参考にしない」は60歳代以上で30%後半となっている。(図2 - 39)

< 図 2 - 38 > 性別



< 図 2 - 39 > 年齢別



(12) 食中毒を防ぐために家庭で行っていること

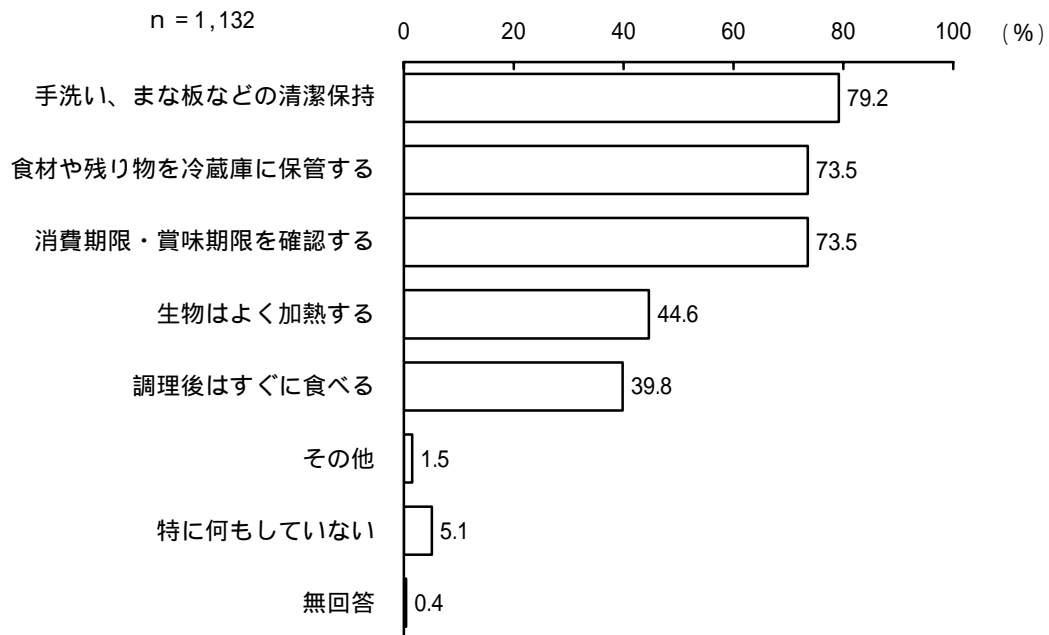
「手洗い、まな板などの清潔保持」が8割

(全員の方に)

問17. あなたが、食中毒を防ぐために家庭でいつも行っていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに)

<図2 - 40> 全体

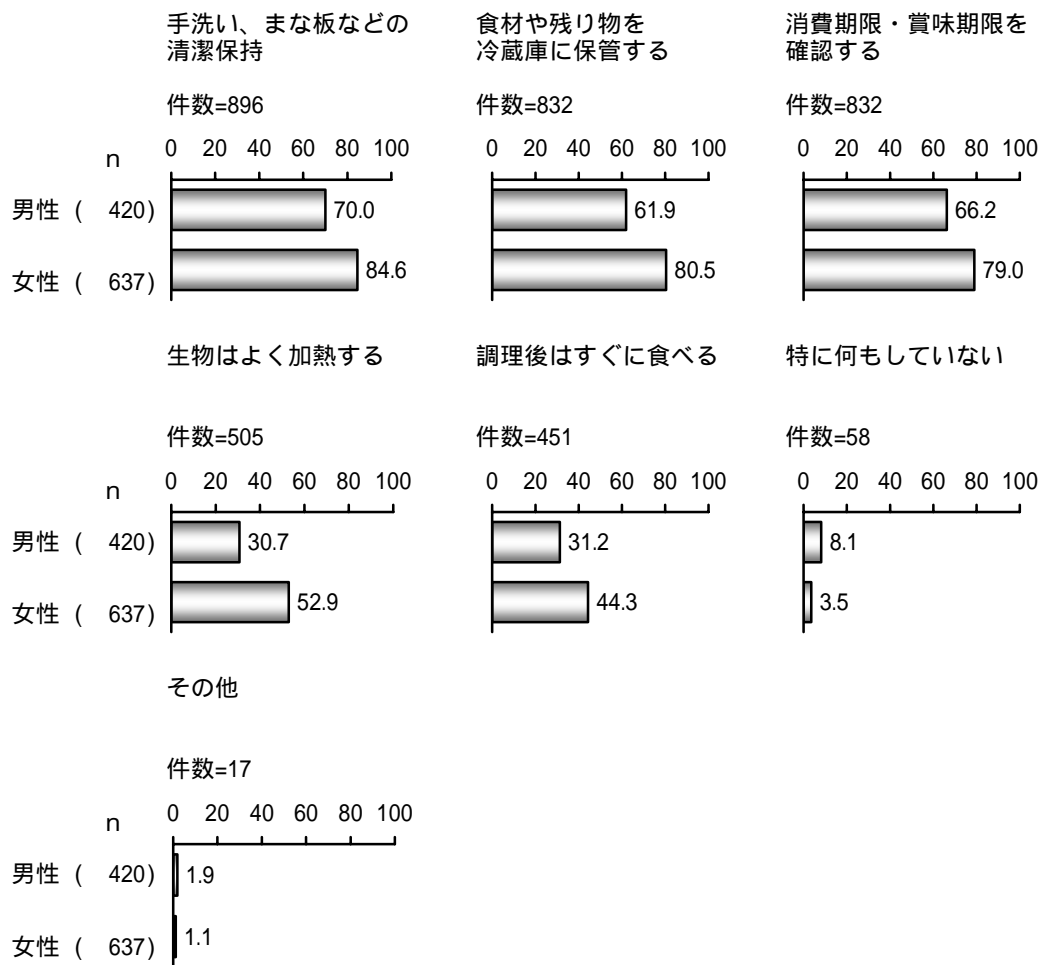


食中毒を防ぐために家庭でいつも行っていることは、「手洗い、まな板などの清潔保持」(79.2%)が最も多く、次いで、「食材や残り物を冷蔵庫に保管する」「消費期限・賞味期限を確認する」(73.5%)も7割以上となっている。以下、「生物はよく加熱する」(44.6%)、「調理後はすぐに食べる」(39.8%)となっている。(図2 - 40)

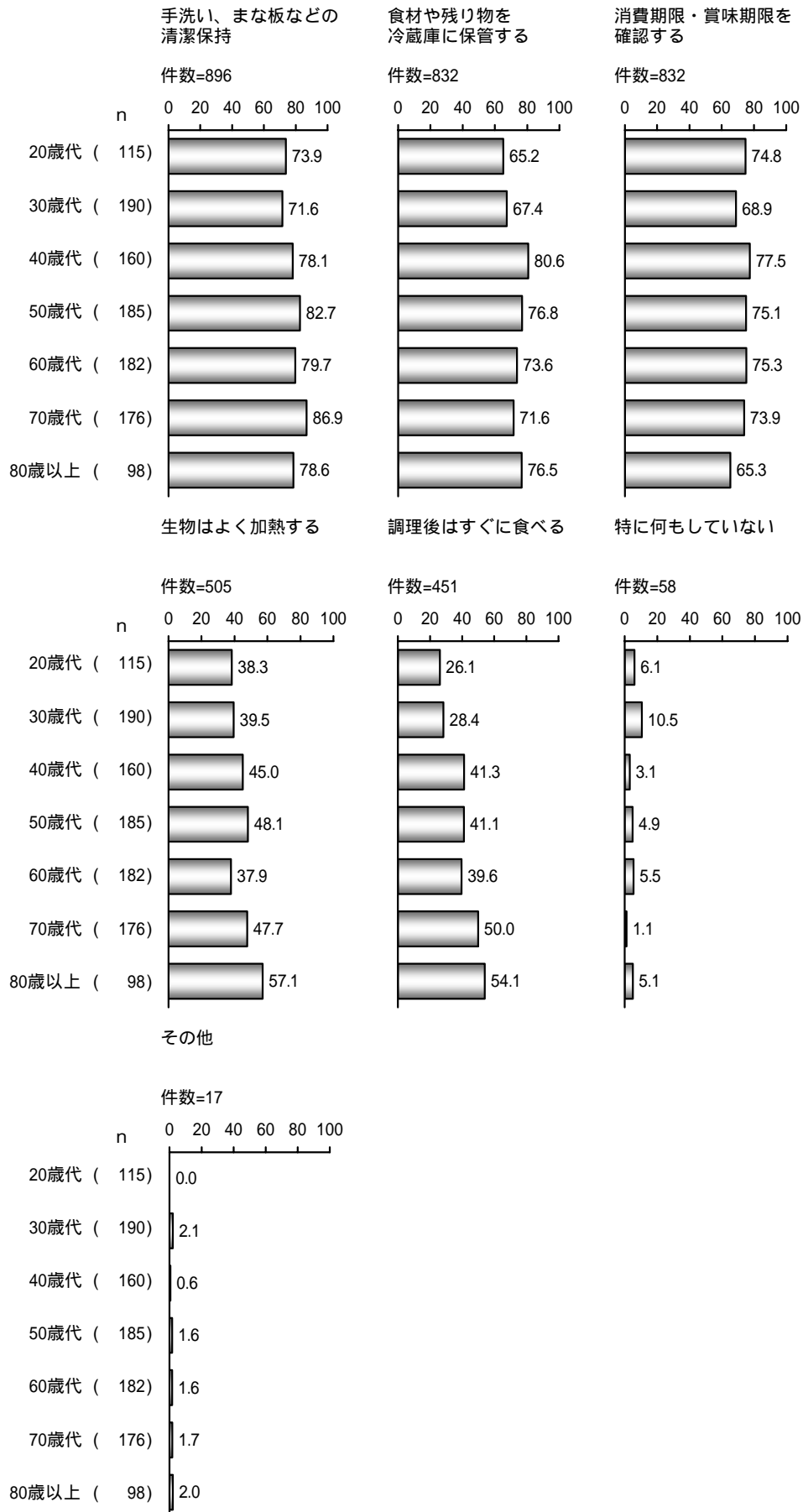
性別に見ると、すべての項目で男性より女性の方が高くなっている。(図2 - 41)

年齢別に見ると、「手洗い、まな板などの清潔保持」は、全年齢で70%以上と高くなっており、特に70歳代では86.9%と高くなっている。一方、「特に何もしていない」は、30歳代で10.5%となっている。(図2 - 42)

< 図 2 - 41 > 性別



< 図 2 - 42 > 年齢別



(13) うつ病に関して相談することへの抵抗感

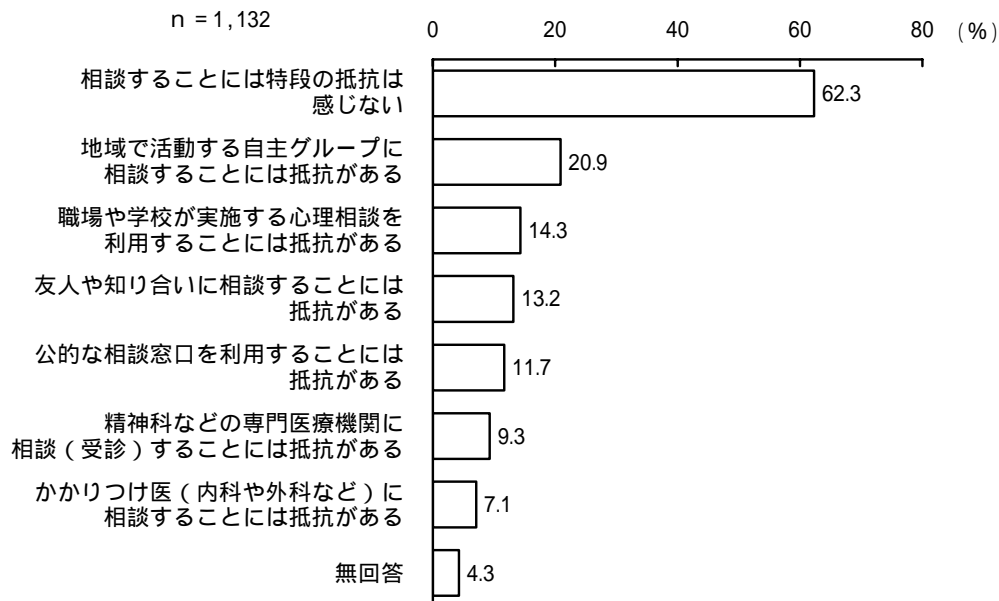
「相談することには特段の抵抗は感じない」が6割強

(全員の方向に)

問18.「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたのお考えに近いのはどれですか。

(あてはまるものすべてに)

< 図 2 - 43 > 全体

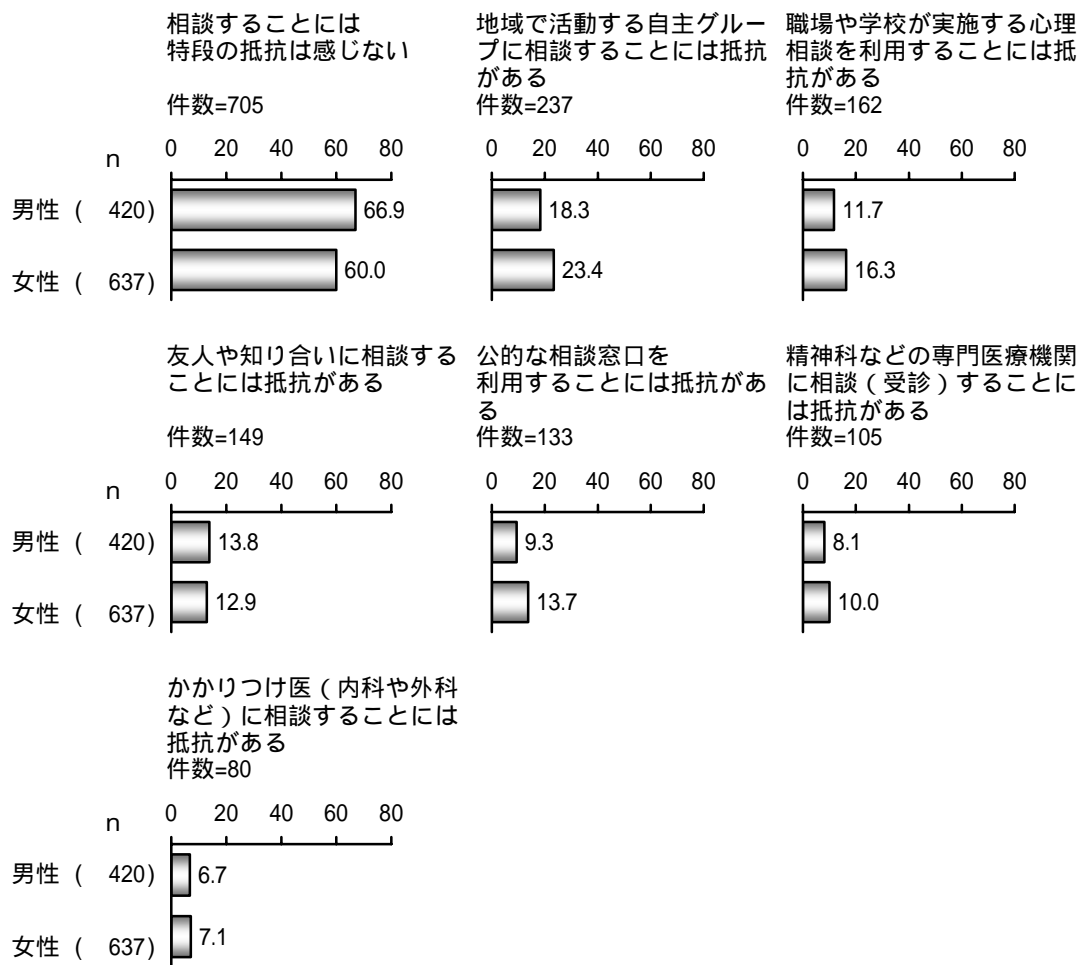


自分や家族がうつ病になったとき、相談することについては、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人が62.3%で最も多くなっている。以下、「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」(20.9%)、「職場や学校が実施する心理相談を利用することには抵抗がある」(14.3%)、「友人や知り合いに相談することには抵抗がある」(13.2%)、「公的な相談窓口を利用することには抵抗がある」(11.7%)、「精神科などの専門医療機関に相談(受診)することには抵抗がある」(9.3%)、「かかりつけ医(内科や外科など)に相談することには抵抗がある」(7.1%)の順になっている。(図2-43)

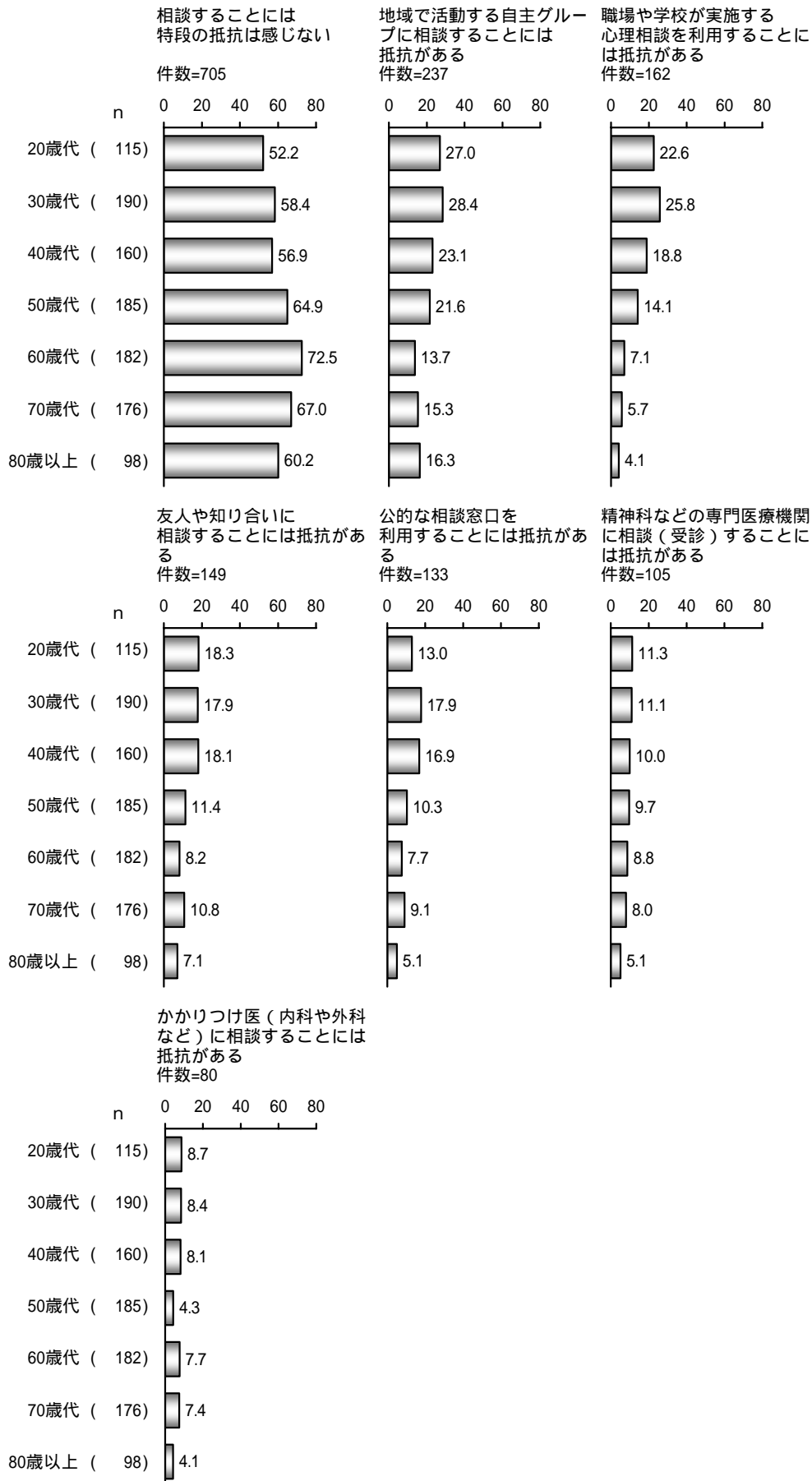
性別に見ると、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人では男性(66.9%)が女性(60.0%)より6.9ポイント高くなっている。また、「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」と答えた人では女性(23.4%)が男性(18.3%)より5.1ポイント高くなっている。(図2-44)

年齢別に見ると、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人は60~70歳代で70%前後と高くなっている。また、「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」と答えた人では20歳代と30歳代で、約30%と高くなっている。(図2-45)

< 図 2 - 44 > 性別



< 図 2 - 45 > 年齢別



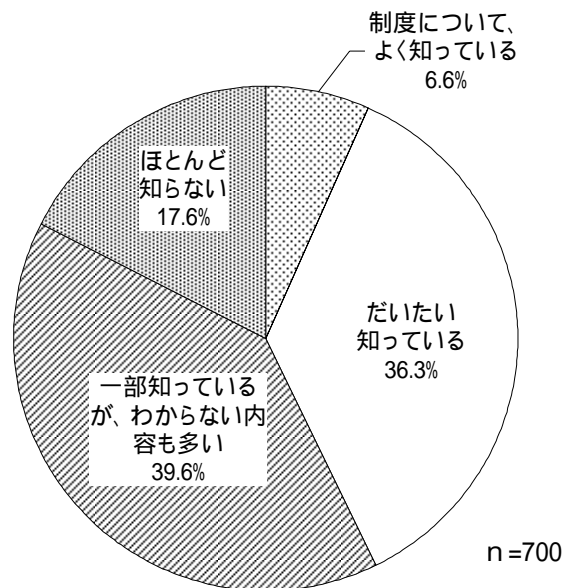
(14) 国民健康保険制度のしくみを認識している度合い

「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせると4割強

(国民健康保険に加入されている方に)

問19. あなたは、国民健康保険のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか。(は1つ)

< 図 2 - 46 > 全体

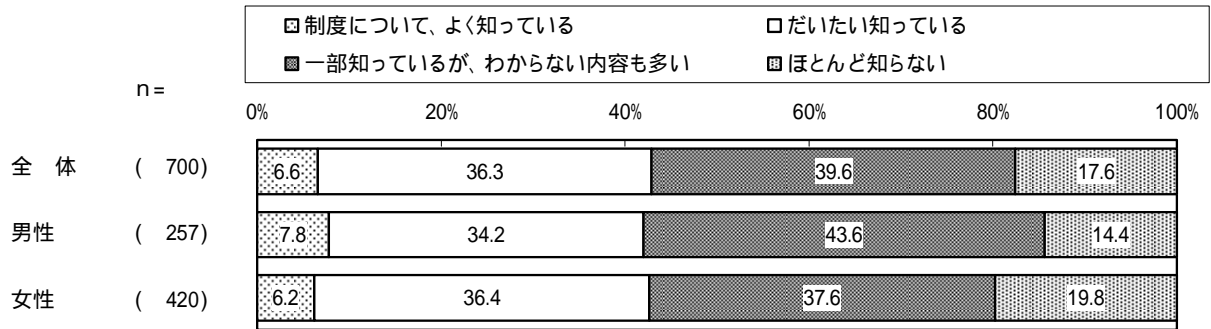


国民健康保険に加入している人に、国民健康保険制度のしくみについてどの程度知っているか聞いたところ、「制度について、よく知っている」と答えた人が6.6%、「だいたい知っている」と答えた人が36.3%で、この両者を合わせた“おおむね知っている”が4割強となっている。また、「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は39.6%、「ほとんど知らない」と答えた人は17.6%となっている。(図2-46)

性別に見ると、「ほとんど知らない」と答えた人は女性が(19.8%)が男性(14.4%)より5.4ポイント高くなっている。(図2-47)

年齢別に見ると、“おおむね知っている”と答えた人は年齢が上がるほど割合が高く、特に70歳代では6割半ばと高くなっている。「ほとんど知らない」と答えた人は20歳代で3割半ばとなっている。(図2-48)

< 図 2 - 47 > 性別



< 図 2 - 48 > 年齢別

